

# 公開講座講師募集

## この公開講座にご興味をお持ちの 小学・中学・高校・塾・短大・大学に從事する先生方へ

神田外語グループ主催英語教育公開講座で日頃の研究をまとめて発表しませんか？  
皆さんの発表が他の先生の参考になり、つまりは英語教育全般のレベルを上げることになります。  
お問い合わせはeメールでプログラムコーディネーターの長谷川まで。

- (1) 講座内容や他の講座とのバランス等の理由によりご希望に応えられない場合があります。
- (2) 申込み多数の場合は次年度に繰り越される場合があります。
- (3) 交通費、宿泊費を支給いたします。
- (4) 応募、及びお問い合わせはeメールでhasegawa@kifl.ac.jp(長谷川)まで。

## お申し込み・お問い合わせ

**受講料** 1講座につき **2,000円**(税込) ※当日、受付にてお支払いください。

- 基調講演は無料です。
- 取り組みの紹介を兼ねている、無料の体験授業の開講もあります。

**申込方法** <https://www.kandagaigo.ac.jp/eikyo/>

- ホームページからお申し込みください。
- 各講座ともに、定員に達し次第、受付を終了いたします。

**締切日** 申し込み締め切りは、開催日の1週間前まで。

- 空席がある講座のみ当日受付も行います。

**お問い合わせ** 神田外語グループイベント事務局

〒101-8525 東京都千代田区内神田 2-13-13

**03-3255-0736** (10:00-17:00 ※土・日・祝、8/3~18を除く)

[event@kandagaigo.ac.jp](mailto:event@kandagaigo.ac.jp)

イベント当日のご連絡先(当日のみ)

**090-1126-5324**

“New Teaching Styles  
in Reiwa Era”

# 2019 ENGLISH EDUCATION SEMINAR

## 英語教育公開講座

テーマ「令和時代の新しい授業形態」

Presented by  
Kanda University of International Studies and  
Kanda Institute of Foreign Languages

東京「神田外語学院」

**SATURDAY, JULY 27 &  
SUNDAY, JULY 28**  
10:00-17:20

静岡「グランシップ」

**MONDAY, AUGUST 19**  
大宮「大宮ソニックシティ」  
**TUESDAY, AUGUST 27**  
10:00-15:00

対象

小学校・中学校・高等学校の先生方、  
英語教育関係者、英語教育に関心のある方

ホームページ

<https://www.kandagaigo.ac.jp/eikyo/>

主催

神田外語大学、神田外語学院





英語教育公開講座 2019

# GREETINGS

## 2019 THEME

“New Teaching Styles in Reiwa Era”  
令和時代の新しい授業形態

## 2019 年度 英語教育公開講座開講のご挨拶

神田外語教育公開講座コーディネーター  
神田外語学院教育部教育開発指導担当

長谷川 貢

Mitsugu HASEGAWA  
General Manager, Academic Affairs, Kanda Institute of Foreign Languages



新しい元号令和を迎え、元年に相応しい英語教育公開講座にしたいと思い、今年も多様な講座を用意致しました。元号が平成から令和になったからと言って世の中が大きく変わることはないのですが、英語教育の世界では、小学校3年生からの英語授業や大学入学共通テストの導入など、日本の英語教育にかつてなかったほど大きな変化と言えるでしょう。その変化に伴い、この令和の時代の英語授業はどのようになるのでしょうか。今年の英語教育公開講座では「令和時代の新しい授業形態 New Teaching Styles in Reiwa Era」をテーマとし、プレゼンターと出席者の皆さんと共に考えたいと思います。また、2020年度から始まる小学校3年生からの英語授業のために、今年から小学校英語授業に関する講座を増やしました。来年度から大きなチャレンジに立ち向かう小学校の先生方のお役に立てれば幸甚に思います。

基調講演にはこの公開講座ですでおなじみの、西武学園文理高等学校の土屋進一先生にお願いしました。土屋先生は授業で「主体的で深い学び」を実践するにはどうしたら良いかを探求されており、そのためにいろいろな仕掛けや工夫を研究されています。今回の講演では実際の授業映像などを交えてその実践例をお話ししていただけたとのこと。小学校から高校まで多くの先生方に参考になるお話をいただけます。

講座の構成は以下の8つのカテゴリに分かれています。複数の分野が含まれる場合もありますので、個々の説明をお読みいただきますようお願いいたします。

1. 中学・高校・大学の現役の先生方による講座
2. 英語教授法理論に関する講座
3. ICTを応用した授業に関する講座
4. CLIL授業例を紹介する講座
5. 4技能入試対策
6. 英語学習活動のアイデアを紹介する講座
7. 小学校英語、児童英語に関する講座
8. デモ授業体験

今年は東京神田会場の他に静岡(8月19日、グランシップ)と大宮(8月27日、ソニックシティ)でも開催することとなりました。会場の関係で講座数は少ないですが、多くの先生方にご利用いただきたく思います。また、講座の発表者を募集しています。日頃、積み重ねた経験や研究を発表する場、そして同じ立場の先生方と情報共有をする場として大いにご利用いただきたく思います。

最後に、台風の直撃を受けて多くの方が参加できなかった昨年のようにならないように天に祈りながら、皆様との再会を楽しみにしております。



英語教育公開講座 2019

# SCHEDULE / VENUE

## 会場・開催日

東京会場 7/27 SAT

神田外語学院 28 SUN

〒101-8525 東京都千代田区内神田 2-13-13  
Kanda Institute of Foreign Languages  
2-13-13 Uchi-Kanda Chiyoda-ku Tokyo 101-8525

受付開始  
9:30

1コマ目  
10:00-12:00

2コマ目  
13:00-15:00

3コマ目(東京のみ)  
15:20-17:20

静岡会場 8/19 MON

グランシップ (静岡県コンベンションアーツセンター)

〒422-8019 静岡県静岡市駿河区東静岡2-3-1  
Granship (Shizuoka Prefecture Convention Arts Center)  
2-3-1 Higashi-Shizuoka Suruga-ku Shizuoka-shi Shizuoka 422-8019

大宮会場 8/27 TUE

大宮ソニックシティ

〒330-8669 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5  
Omiya Sonic City  
1-7-5 Sakuragi-cho Omiya-ku Saitama-shi Saitama 330-8669

## お申し込み・お問い合わせ

### 受講料

1講座につき 2,000円(税込) ※当日、受付にてお支払いください。

- 基調講演は無料です。
- 取り組みの紹介を兼ねている、無料の体験授業の開講もあります。

### 申込方法

<https://www.kandagaigo.ac.jp/eikyo/>

- ホームページからお申し込みください。
- 各講座ともに、定員に達し次第、受付を終了いたします。

### 締切日

申し込み締め切りは、開催日の1週間前まで。

- 空席がある講座のみ当日受付も行います。

### お問い合わせ

03-3255-0736 (イベント事務局 / 10:00-17:00 ※土・日・祝、8/3~18を除く)



英語教育公開講座 2019

# LECTURES

## 東京会場 7/27 SAT 28 SUN

全ての授業は、1コマ2時間で完結です。連続して受講する必要はありませんのでご注意ください。

受付開始 9:30  
1コマ目 10:00-12:00  
2コマ目 13:00-15:00  
3コマ目 15:20-17:20

**受付**

■ 神田外語学院 本館1階

**交通アクセス**

- JR山手線・京浜東北線・中央線、神田駅西口から徒歩2分
- 東京メトロ神田駅1番出口から徒歩3分
- 東京メトロ大手町駅A2出口・淡路町駅A1出口、都営地下鉄小川町A1出口から徒歩7分

※駐車のご用意はございませんので、公共交通機関をご利用ください。



### 基調講演(無料) Keynote Speech

<b>KA-1</b> 土屋進一 つちやしんいち 埼玉県西武学園文理高等学校教諭	7月27日土	10:00-12:00	定員 200名
基調講演「主体的・対話的で深い学び」を促す授業とは			

### 講座カテゴリー「中学・高校・大学の現役の先生方による講座」 Guest Teachers

<b>KA-2</b> 土屋進一 つちやしんいち 埼玉県西武学園文理高等学校教諭	7月28日 10:00-12:00	7月28日 15:20-17:20	定員 30名	
「主体的・対話的で深い学び」を促す英語授業の実践例				
<b>KA-3</b> 山西敏博 やまにしとしひろ 公立長野大学企業情報学部教授	7月27日土 13:00-15:00	7月28日 13:00-15:00	7月28日 15:20-17:20	定員 30名
中学内容で、奥深い学びができるコミュニケーション英語 ～令和元年・童謡と4コママンガ&DA PUMP(U.S.A.)、楽しみながらCLILを学ぼう!～				
<b>KA-4</b> 高橋澄成 たかはしきよなり 千葉県八千代松陰高等学校教諭	7月27日土 15:20-17:20	7月28日 15:20-17:20	定員 20名	
Student Training for New Learning 新しい学びのための生徒育成				
<b>KA-5</b> 大野理智子 おおのりちこ 秋田県東成瀬村立東成瀬中学校教諭	7月27日土 13:00-15:00	7月28日 10:00-12:00	7月28日 13:00-15:00	定員 30名
新学習指導要領を意識した授業改善の在り方				
<b>KA-6</b> Jonathan Andreano ジョナサン アンドレアノ 開智日本橋学園中学校・高等学校教諭	7月27日土 13:00-15:00	7月28日 13:00-15:00	7月28日 15:20-17:20	定員 30名
Fostering Language Learning Through Programming プログラミングで言語学習を促進する				
<b>KA-7</b> Jason Wolfe ジェイソン ウルフ 開智日本橋学園中学校・高等学校教諭	7月27日土 13:00-15:00	7月28日 13:00-15:00	7月28日 15:20-17:20	定員 30名
Designing CLIL Classes from the Ground up 初歩からのCLIL授業の計画				

### 講座カテゴリー「英語教授法理論に関する講座」 Category: Teaching theory

<b>KA-8</b> Daniel O. Jackson ダニエル ジャクソン 神田外語大学外国語学部英米語学科准教授	7月28日 10:00-12:00	7月28日 13:00-15:00	定員 30名	
Language Teacher Noticing for Learner Engagement and Professional Development 学習活動の把握と教授力向上のための教員の気づき				
<b>KA-9</b> Tim Murphey ティム マーフィー 神田外語大学自立学習教育研究所(RILAE)客員教授	7月27日土 13:00-15:00	7月28日 10:00-12:00	7月28日 13:00-15:00	定員 30名
Asking May Be a Moment's Embarrassment; Not Asking is a Lifelong Regret 「たぶん」を尋ねるは一瞬の恥、尋ねずは一生の悔み				
<b>KA-10</b> 小林真記 こばやしまさき 神田外語大学外国語学部英米語学科教授	7月27日土 13:00-15:00	7月27日 15:20-17:20	定員 30名	
コミュニケーション重視の英語授業における文法指導を考える				
<b>KA-11</b> Javier Salazar ジャビア サラザー ① 神田外語学院EIC教員	7月27日土 13:00-15:00	7月28日 13:00-15:00	定員 30名	
Strategic Competence: What is it, How to teach it and How to assess it コミュニケーションにおける方略的能力とは?どう教え、どう測るか				
<b>KA-12</b> Javier Salazar ジャビア サラザー ② 神田外語学院EIC教員	7月27日土 15:20-17:20	7月28日 15:20-17:20	定員 30名	
Developing Sociocultural and Discursive Competence in EFL Learners: Sports Metaphors for Developing Communication Skills 英語学習者に社会文化性と漫然性を学ばせる: コミュニケーション能力育成のためのスポーツメタファー				

### 講座カテゴリー「ICTを応用した授業に関する講座」 Category: ICT for English Classes

<b>KA-13</b> 関屋康 せきや やすし / 矢頭典枝 やずのりえ 神田外語大学外国語学部英米語学科教授 小中原麻友 こなかはら まゆ 神田外語大学外国語学部英米語学科専任講師	7月27日 15:20-17:20	7月28日 10:00-12:00	7月28日 13:00-15:00	定員 30名
世界の英語を学ぶ ～神田外語大学・東京外国語大学共同開発の無料ウェブ教材を活用して～				
<b>KA-14</b> Scott Sustenance スコット サステナンス 神田外語大学ELI語学専任上級講師	7月27日 13:00-15:00	7月28日 10:00-12:00	7月28日 13:00-15:00	定員 30名
#vocabulary - the Keyword Method in a Digital Classroom 語彙 - デジタルテクノロジーを使ったキーワードメソッド				
<b>KA-15</b> 北村孝一郎 きたむら こういちろう 神田外語大学外国語学部国際コミュニケーション学科専任講師	7月27日 13:00-15:00	7月28日 13:00-15:00	7月28日 15:20-17:20	定員 30名
ICTを活用した英文法指導: 「英文法授業ノート」とデジタル・コンテンツを併用した授業実践				
<b>KA-16</b> Ryan Lege ライアン レギー 神田外語大学ELI主任講師	7月28日 13:00-15:00	7月28日 15:20-17:20	定員 30名	
The Changing Role of ICT in English Education 英語教育におけるICTの役割変革				
<b>KA-17</b> Sky Mallari スカイ マラーリ 神田外語学院EIC教員	7月27日 15:20-17:20	定員 15名		
Social Media Apps and Netflix to the Rescue: Promoting Literacy and Cultural Awareness while Motivating Japanese High-school Students in the EFL Classroom ソーシャルメディアアプリとNetflixによる救済: 識字力と文化的認識を高め、日本の高校英語学習者の学習意欲を高める				
<b>KA-18</b> Kieran Julian キーラン ジュリアン 神田外語学院EICスーパーバイザー	7月27日 13:00-15:00	7月28日 10:00-12:00	7月28日 15:20-17:20	定員 30名
A Practical Approach to Using VR in the Language Classroom 語学授業のためのVR使用の具体的方法				

### 講座カテゴリー「CLIL授業例を紹介する講座」 Category: CLIL

<b>KA-19</b> 藤村朋子 ふじむらともこ 神田外語大学外国語学部イロアメリカ言語学科専任講師	7月27日 13:00-15:00	7月27日 15:20-17:20	定員 30名
日本文化を英語で紹介しよう ～中高生向けの発信型グループ活動～			
<b>KA-20</b> 須藤達也 すどう たつや 神田外語大学外国語学部英米語学科講師 駒沢大学講師	7月27日 15:20-17:20	7月28日 15:20-17:20	定員 30名
英語落語で会話力アップ!			

### 講座カテゴリー「4技能入試対策」 Category: Commercial Certificate Exams

<b>KA-21</b> 上原雅子 うえはら まさこ ① 神田外語大学外国語学部英米語学科特任講師	7月27日 13:00-15:00	7月28日 10:00-12:00	定員 30名
4技能型試験に向けた指導のポイント - Listening, Speaking, Reading			
<b>KA-22</b> 上原雅子 うえはら まさこ ② 神田外語大学外国語学部英米語学科特任講師	7月27日 15:20-17:20	7月28日 13:00-15:00	定員 20名
4技能型試験に向けた指導のポイント - Writing			

次のページへ続く →

講座カテゴリ「小学校英語、児童英語に関する講座」 Category: Elementary School English Classes

<b>KA-23</b> 河合裕美 かわいひろみ 神田外語大学児童英語教育研究センター(CTEC)専任講師	7月27日土	7月28日日	定員 30名
まだ間に合う!小中接続を意識した音声・文字指導 ~つなぎテキスト「We Can!」を使って~	13:00-15:00 ●	15:20-17:20 ●	
<b>KA-24</b> 内山工 うちやまたくみ 神田外語大学外国語学部英米語学科講師	7月27日土		定員 30名
小学生に教える読み書き指導の方法 ~音と文字を関連させて~	13:00-15:00 ●	15:20-17:20 ●	
<b>KA-25</b> Andy Lankshear アンディー ランクシャー ① 郡山ザベリオ学園専任教員	7月27日土	7月28日日	定員 30名
What's Missing? Designing and Implementing Information Gap Activities for the Young Learner Classroom 「なにか足りない?」児童英語教室におけるインフォメーション・ギャップ学習活動の計画と実践	13:00-15:00 ●	13:00-15:00 ●	
<b>KA-26</b> Andy Lankshear アンディー ランクシャー ② 郡山ザベリオ学園専任教員	7月27日土	7月28日日	定員 30名
Introduction to Online Resources for Teachers of Young Learners 児童英語教師のためのオンライン教材・資料のご紹介		15:20-17:20 ●	10:00-12:00 ●
<b>KA-27</b> Daniel Dusza ダニエル ドゥーサ 神田外語学院EIC専任教員	7月27日土	7月28日日	定員 30名
CLIL Approach to Introducing Computer Literacy - Making a self-introduction コンピューターを使ったCLIL授業 - 自己紹介をする	13:00-15:00 ●	13:00-15:00 ●	

講座カテゴリ「英語学習活動のアイデアを紹介する講座」 Category: Practical Ideas for Communicative English Classes

<b>KA-28</b> Phoebe Lyon フィービー ライオン 神田外語大学ELI主任講師	7月27日土		定員 30名
InterACTIVE Classroom Activities インタラクティブな学習活動		15:20-17:20 ●	
<b>KA-29</b> Sam Morris サム モリス 神田外語大学ELI語学専任上級講師	7月27日土	7月28日日	定員 30名
Supporting Students to Communicate in English during Classes 英語コミュニケーションのための生徒支援	13:00-15:00 ●	10:00-12:00 ●	13:00-15:00 ●
<b>KA-30</b> Amelia Yarwood アメリア ヤーウッド 神田外語大学セルフアセスラーニングセンター(SALC)専任講師	7月27日土	7月28日日	定員 30名
Practical Activities to Promote Imagination and Motivated Learning イマジネーションと学習意欲を盛り立てる実践的学習活動		15:20-17:20 ●	13:00-15:00 ●
<b>KA-31</b> Brian Damm ブライアン ダム 神田外語学院EICスーパーバイザー	7月27日土	7月28日日	定員 30名
Getting Out of the Rut: How to Create More Excitement and Motivation in the ESL Classroom マンネリからの脱出:英語授業に楽しさとやる気を創出する方法		15:20-17:20 ●	10:00-12:00 ●
<b>KA-32</b> Sean Green ショーン グリーン 神田外語学院EICスーパーバイザー	7月27日土	7月28日日	定員 30名
Easy Methods for Making Debate Fun and Meaningful ディベートを楽しく有意義にする簡単な方法	13:00-15:00 ●	10:00-12:00 ●	13:00-15:00 ●
<b>KA-33</b> Anthony DiGiulio アンソニー ディジュリオ 神田外語学院EIC専任教員	7月27日土	7月28日日	定員 30名
Tools and Tips for Getting Students to Produce Video Content 生徒に英語のビデオ作品を作らせるツールとコツ	13:00-15:00 ●	10:00-12:00 ●	15:20-17:20 ●
<b>KA-34</b> Daniel Dusza ダニエル ドゥーサ 神田外語学院EIC専任教員	7月27日土	7月28日日	定員 30名
CLT Activities That Improve Communicative Competence, Motivation, and Participation 会話能力と意欲と積極性を育てるコミュニケーション学習活動		15:20-17:20 ●	15:20-17:20 ●
<b>KA-35</b> Jeffrey McEntire ジェフリー マッケンタイア ① 神田外語学院EIC専任教員	7月27日土		定員 30名
Making an Argument: Problem-Solving, Critical Thinking, and Rhetoric 口論する:問題解決力、批判能力、巧みな言葉遣いの育成	13:00-15:00 ●		
<b>KA-36</b> Jeffrey McEntire ジェフリー マッケンタイア ② 神田外語学院EIC専任教員	7月27日土	7月28日日	定員 30名
Reading Narrative: A Framework, a Method, and Activities 物語を読む:構成、方法、活動		15:20-17:20 ●	10:00-12:00 ●

デモ授業体験(無料) Demonstrations

<b>KA-37</b> Anthony Madden アンソニー マデン 神田外語学院ハイブリッドイングリッシュラーニングプログラム(HELP)コーディネーター	7月27日土	7月28日日	定員 30名
バーチャル英語圏社会で英会話を学ぶ語学プログラム: Hybrid English Learning Program (HELP) 体験授業		15:20-17:20 ●	10:00-12:00 ●
<b>KA-38</b> Gordon Myskow ゴードン ミスコウ 神田外語大学大学院言語科学研究所 英語学専攻 MA TESOL Program 准教授	7月27日土		定員 30名
Kanda Gaigo MA- TESOL Program Demonstration Lesson: Cooperative Learning Options for Productive Group Work Activities 神田外語大学院 TESOL デモ講座:創造的なグループ学習活動のための共同学習	13:00-15:00 ●	15:20-17:20 ●	



英語教育公開講座 2019

# SYLLABUS

基調講演(無料)

Keynote Speech

講座番号 <b>KA-1</b>	対象 中学校・高校教員		土屋進一 つちやしんいち 埼玉県西武学園文理高等学校教諭
	講義タイプ Lecture		
	使用言語 日本語		

## 《基調講演》(無料) 「主体的・対話的で深い学び」を促す授業とは

2019年、新しい時代、令和が幕を開けました。そして、2020年、新たな学習指導要領と大学入学共通テストが実施され、日本の教育は大きな転機を迎えます。本講演では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の内容を以下のように私なりに具体的に提示できたらと考えています。

- ①主体的・対話的で深い学びとは
- ②主体的・対話的な授業の実践例
- ③深い学びを促すCLIL型・教科横断型授業
- ④主体的で深い学びを促すプレゼンテーション授業

これまで私自身が、受講者としてさまざまなセミナーで先生方から学ばせていただいたことをもとに構築した指導法を参加者のみなさんと共有できたらと思います。一人でも多くの先生方の参考となるよう、一生懸命お話をさせていただきます。

Profile

法政大学大学院修了。埼玉・西武学園文理高等学校に勤務。17年目。講演実績: ELEC英語教育研修会、英語教育達人セミナー、神田外語英語教育公開講座、カシオ計算機 授業に活かす教材活用セミナー、長野県高等学校 外国語研究会、啓林館 英語教育セミナー。授業撮影: Find!アクティブラーナー「教科横断型授業:英語×生物~つながることのUMAMI~」掲載論文: 啓林館「授業実践記録2018,2019年」、数研出版「CHART NETWORK 83, 86号」、大修館書店「英語教育2019年6月号」

Message

「主体的・対話的で深い学び」を実現する英語授業とは一体どのようなものだろうか? また、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を3つの柱とし、生徒の資質・能力を育てるためには、どのような仕掛けや授業作りが必要だろうか? これまで試行錯誤を繰り返しながら辿り着いた具体的な指導事例を紹介し、今後のより良い英語授業について受講者のみなさんと一緒に考えていきたいと思います。

*Kanda University of International Studies MA TESOL Program (Tokyo)*

## Demonstration Lesson & Information Session for April 2020 admission to the MA TESOL Program

Admission: FREE Language: ENGLISH

Please come prepared to work with others in the workshop activities.  
Open to anyone with interest in teaching English.

7/27/2019 KA-38	Workshop (90 min.)	Information Session* (30 min.)
Session 1	13:00 - 14:30	14:30 - 15:00
Session 2	15:20 - 16:50	16:50 - 17:20

\* Information Session; Explanation of the curriculum and admission procedures.

Inquiries: Building 7, 4F, 2-13-13 Uchikanda, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-8525, JAPAN  
Phone: 03-3254-3586 Fax: 03-3254-3585



Gordon Myskow, PhD,  
Associate Professor,  
Assistant Director of the MA TESOL Program,  
Kanda University of International Studies



## 講座カテゴリ「中学・高校・大学の現役の先生方による講座」

## Guest Teachers

講座番号

# KA-2

対象 中学校・高校教員

講義タイプ Workshop / Teacher training

使用言語 日本語



### 土屋進一

つちやしんいち

埼玉県西武学園文理高等学校教諭

### Profile

法政大学大学院修了。埼玉・西武学園文理高等学校に勤務。17年目。講演実績：ELEC英語教育研修会、英語教育達人セミナー、神田外語英語教育公開講座、カシオ計算機 授業に活かす教材活用セミナー、長野県高等学校 外国語研究会、啓林館 英語教育セミナー。授業撮影：Find!アクティブラーナー「教科横断型授業：英語×生物～つながることのUMAMI～」掲載論文：啓林館「授業実践記録2018,2019年」、数研出版『CHART NETWORK 83, 86号』、大修館書店『英語教育2019年6月号』

### Message

「主体的・対話的で深い学び」を実現する英語授業とは一体どのようなものでしょうか？また、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を3つの柱とし、生徒の資質・能力を育むためには、どのような仕掛けや授業作りが必要でしょうか？これまで試行錯誤を繰り返しながら辿り着いた具体的指導事例を紹介し、今後のより良い英語授業について受講者のみなさんと一緒に考えていきたいと思います。

講座番号

# KA-3

対象 中学校・高校教員

講義タイプ Workshop

使用言語 日本語・英語



### 山西敏博

やまにしとしひろ

公立長野大学企業情報学部教授

### Profile

Heidelberg University(USA)修了(MA)、大阪大学大学院 博士後期課程 満期単位取得。現・公立長野大学企業情報学部教授、国際音楽メンタルセラピスト協会会長・日本童謡学会常任理事・高校生NIE研究会理事・新聞教育研究協議会常任理事・グローバル人材育成教育学会、日本CLIL、日本NIE学会会員ほか 著書：『GENIUS英和大辞典』『大学入試問題正解(旺文社)・赤本(教学社)』ほか全62冊

### Message

【令和元年】が始まりました！  
普段の授業は、先生ご自身も楽しみながら行っていますか？  
現在の高校生には、中学校で習う英語がなかなか定着していないと言われてます。「コミュニケーション重視」はもちろんよいことなのですが、「対話」は「内容」があつてのものです。  
そこで、今回の講座は【内容を重視した英語教育：CLIL(内容言語統合学習)】に焦点を当て、120分ずつの2講座で行います。  
1. 「音楽」(主に「童謡」)を用いた授業  
2. 「時事問題」(新聞の4コママンガ)+DA PUMP[U.S.A.]を活用した授業  
一見遊んでいるようで、実はその奥には隠された「学び」があるのです！  
「えっ、この曲でこんな文化比較ができる・・・？」「えっ、こんな有名なマンガで、中学1年生で学ぶ内容が学べる・・・？」など、驚きと楽しさが連続するはず！  
【令和最初】となる、新進気鋭のCLILによる英語教育実践をご堪能ください。

## 中学内容で、奥深い学びができるコミュニケーション英語～令和元年：童謡と4コママンガ&DA PUMP(U.S.A.)、楽しみながらCLILを学ぼう！～

このワークショップでは教師が提示する新聞における「4コマ漫画」の活用の仕方(ENIE: English Newspaper in Education—英語を用いた新聞活用教育)と、「音楽(主に童謡・唱歌)を用いて行う、脳科学・アドラー心理学を応用させた英語会話」およびDA PUMP[U.S.A.](CLIL: Content and Language Integrated Learning—内容言語統合型学習)を英語授業に活用するあり方について、皆様とワークショップを行ってまいります。それらの活動を2学期からすぐに使っていただける実践として、ご紹介させていただきます。また、生徒たちが主体的に取り組めるようにするための、さまざまな活動につきましてご紹介させていただく予定です。2時間X2部構成にして行います。

- 「音楽」(主に「童謡」)を用いた授業
  - 「童謡メンタルセラピー」とは
  - 「童謡メンタルセラピー」を用いた英語授業実践
  - 「童謡」を活用した英語授業実践
- 「時事問題」(新聞の4コママンガ)&DA PUMP[U.S.A.]を用いた授業
  - 「4コマ漫画」の、新聞に関わる役割とは
  - 「4コマ漫画」活用実践の紹介
  - 「4コマ漫画」を用いた英語授業実践
  - DA PUMP[U.S.A.]を用いた、日米文化比較授業

講座番号

# KA-4

対象 小学校・中学校・高校教員

講義タイプ Workshop / Discussion

使用言語 日本語



### 高橋澄成

たかはし きよなり

千葉県八千代松陰高等学校教諭

### Profile

2018年3月 神田外語大学外国語学部英米語学科卒業  
2018年4月～ 千葉県八千代松陰高等学校英語科教諭

### Message

主体的・対話的な学び(アクティブラーニング)の必要性が強調されています。全国各地で主体的・対話的な学びのためのセミナー、多くの本では、その活動が紹介されています。セミナー・本で学んだことをやってみよう、うまくいかない、中々生徒が上手に活動してくれない、そんな経験ありませんか？アクティブラーニングをするには「アクティブラーニングが出来る生徒」が求められます。アクティブラーニングは自転車と一緒にです。出来る人・出来ない人がいます。そして、練習すればそれが必ず出来るようになります。  
本講座では私の一年間でやってきたアクティブラーニングが出来る生徒育成について皆さんと話し合いながら共有していきます。

## Student Training for New Learning 新しい学びのための生徒育成

教師が新しい学び(主体的・対話的で深い学び)に向けて、スキルを習得するのはあたりまえですが、生徒も新しい学びに対応する力が必要です。その力を育成することをここでは、student trainingと呼んでいます。本講座では、ICT、アクティブラーニング、ふりかえり(リフレクション、ポートフォリオ)のための生徒育成方法について共有します。  
この講座も主体的・対話的な講座であります。グループワーク・ペアワーク中心で進めていきます。ミニプレゼンテーションなどとして頂きたいと思います。全セッション下記のアウトライン通りに進めていきますが、グループワーク・ペアワークの話し合いの結果によっては、内容を少し変えるかもしれません。参加者が興味ある内容について120分間情報を共有します。

講義内容

- あたらしい学び
- EdTechとは？
- アクティブラーニングとは？  
【ディスカッション】新しい学びについて  
【ディスカッション】アクティブラーニングについて
- Student training for Active learning
- Student training for ICT  
【ディスカッション】今日は何を勉強しましたか？
- Student training for Reflective learning  
【アクティビティ】リフレクションライティング
- まとめ ～先生は主体的？対話的？～

講座番号

# KA-5

対象 中学校・高校教員

講義タイプ Workshop

使用言語 日本語



### 大野理智子

おおの りちこ

秋田県東成瀬村立東成瀬中学校教諭

### Profile

平成元年より秋田県内の中学校に勤務。主な実践発表「単元ゴールを明確にした読解の授業」(英語授業研究会関東支部2016年。著書「成長する英語教師をめざして」(共著：ひつじ書房)。「プロ教師」に学ぶ真のアクティブラーニング」(中嶋洋一責任編集：開隆堂)「英語教育」(大修館)に「やり取りを楽しむ児童・生徒を育む指導」を連載中(共同執筆)。

### Message

中学校で全学年の授業を担当しています。今年度初め、2つの大きな関心事がありました。  
1つ目は、全国学力テストに英語が導入されたことです。4つの技能に分かれた問題内容を見ると、生徒達に今後、授業でどのような力を身に付けさせなくてはならないのかが見えてきました。どの技能でも思考力・判断力が求められていることを改めて感じました。  
2つ目は、小学校英語の教科化により中学校の入門単元は生徒の実態に合わない可能性があるということで、文部科学省から「小中接続」に係る指導資料が提供されたことです。  
めまぐるしい変化が求められる中だからこそ、私たち現場の教師は、どんなに時代が変わろうと、生徒達が未来を生きていくためのコミュニケーション能力を身に付けるのが授業の目的であることを見失ってはならないと思っています。

## 新学習指導要領を意識した授業改善の在り方

中学校の外国語新学習指導要領では、4技能が「5領域」になり、「話すこと」が「やり取り」と「発表」に細分化されました。両者が即興性が求められていますが、日々の授業で具体的にはどのような活動をしていったらいいのでしょうか。

一方、全国学力テストでは、どの技能でも自分の考えを書く問題が取り上げられています。限られた授業時数の中で、どのようにして書く力を付けたいのでしょうか。

英語の授業には多くの変革が求められています。しかし、時間や環境などを考えたとき、我々ができることには限界があります。また、学習障害的傾向を持つ生徒の増加、学力差の開きなどの問題も見られます。

本講座では、日頃の授業実践を紹介しながら、このようなことだったらできるのではないかとという提案をしたいと思っています。

- 即興的な「やり取り」からライティングへ
  - 安心して「やり取り」ができる学習集団のつくり方
  - 教師と生徒の「やり取り」を成功させるポイント
  - 英語が苦手な生徒、学習障害をもつ生徒への支援
  - 発展的な内容をどう書かせるか
- 中学校でも無理なくできる教育ディベート(授業VTR)
  - 普段の授業で何をしておくか
  - どの生徒も意欲的に発言できるようにするコツ
  - 発言の質を高めるジャッジ体験

講座番号

KA-6

対象 小学校・中学校・高校教員

講義タイプ Workshop

使用言語 日本語・英語



Jonathan Andreano

ジョナサンアンドレアノ

開智日本橋学園中学校・高等学校教諭

### Profile

Jonathan Andreano (MA TESOL) is a Japan-licensed Information Science, Social Studies, and English instructor. He is currently employed as an International Baccalaureate MYP/DP Coordinator and ICT Administrator.

### Message

皆さんは技術がお好きでしょうか。プログラミングの基礎を学びたいと思ったことはありませんか。ぜひ新しい技能を身につけ、教育の現場で活かしてください。このワークショップでは、プログラミングの基礎を学ぶと共に実際にプログラミングを経験することでしっかりと技能を身につけることができます。未経験者大歓迎です。失敗を恐れずみんなで楽しく学び合しましょう。学ぶことは何歳からでも遅すぎることはありません。年齢は問いませんので、ぜひたくさんの方に参加頂きたいと思っております。

## Fostering Language Learning Through Programming プログラミングで言語学習を促進する

In this hands-on interactive workshop, we will explore different ways in which Scratch 3.0, a free visual programming language created by Massachusetts Institute of Technology (MIT), can be used to help promote language and content learning in the Japanese classroom. Following Scratch's slogan of "Imagine, Program, Share," participants will learn the fundamentals of programming games and animations as well as, strategies and examples for easily introducing programming into their own courses.

講座カテゴリ「英語教授法理論に関する講座」

Category: Teaching theory

講座番号

KA-8

対象 小学校・中学校・高校教員 / 大学教員

講義タイプ Lecture / Discussion

使用言語 英語



Daniel O. Jackson

ダニエル ジャクソン

神田外語大学外国語学部英米語学科准教授

### Profile

Daniel received his Ph.D. in Second Language Studies from the University of Hawaii at Manoa and his M.S. in Education/ TESOL from the Graduate School of Education at the University of Pennsylvania. He has taught English for more than 20 years and is Associate Professor at Kanda University of International Studies.

### Message

Please join this workshop if you are interested in learning about teacher noticing and how it can enhance your teaching and your students' learning. I hope to encourage you to think, act, and reflect with deeper insight, regardless of your teaching context or approach!

## Language Teacher Noticing for Learner Engagement and Professional Development 学習活動の把握と教授力向上のための教員の気づき

In the current era of language education, engagement is increasingly recognized as important. There is no more efficient means of facilitating engagement than a good teacher. Teachers achieve this by noticing student thinking. They are an "aide" to students: attending, interpreting, and deciding while engaged. Teacher noticing can also be a tool for professional development. This session will offer a brief introduction to theory, research, and practice related to teacher noticing. Most studies have been conducted with math and science teachers; however, studies on language teacher noticing have also been done (Jackson & Cho, 2018). We will also consider, through interactive discussions, various ways to employ teacher noticing in order to: (1) develop rapport, (2) support acquisition, (3) enhance participation, (4) initiate reflection, and (5) guide observation. Throughout the session, teachers will be asked to share and reflect upon their experiences. Ideas for classroom research will also be welcomed.

講座番号

KA-7

対象 小学校・中学校・高校教員

講義タイプ Workshop

使用言語 英語



Jason Wolfe

ジェイソン ウルフ

開智日本橋学園中学校・高等学校教諭

### Profile

Jason Wolfe (MA TESOL) is a Japan-licensed Industrial Arts and English instructor. He currently teaches CLIL-style Design courses and promotes interdisciplinary studies as a librarian. In addition, he holds a Band 4 (extensive knowledge) certificate in TKT: Content and Language Integrated learning from Cambridge English.

### Message

Content and Language Integrated Learning (CLIL) lessons are a fun and flexible way to engage students and promote more meaningful language learning experiences for both students and teachers. In this workshop, we will cover the fundamentals for transforming your classes into a CLIL-style course. Individuals who would like to learn how to fuse their passions and interests with language learning are warmly welcomed.

## Designing CLIL Classes from the Ground up 初歩からのCLIL授業の計画

Content and Language Integrated Learning (CLIL) is the teaching and learning of subjects through a second language. CLIL classes can be both a novel way to learn a language or a more challenging approach to learn both subject-specific content and language. Through examples and ongoing case studies, this workshop will cover the basic overview of a CLIL classroom, including the 4 C's (Coyle) – Content, Communication, Cognition and Culture; BICS and CALP (Cummins) learner interaction, support strategies, and varied approaches for differentiation.

講座番号

KA-9

対象 小学校・中学校・高校教員

講義タイプ Workshop

使用言語 英語



Tim Murphey

ティム マーフィー

神田外語大学自立学習教育研究所(RILAE)客員教授

### Profile

(PhD Switzerland) TESOL's Professional Development series editor, co-author with Dörnyei of Group Dynamics in the Language Classroom (CUP), author Music and Song (OUP), Language Hungry! (Helbling), The Tale that Wags (Perceptia.), Teaching in Pursuit of Wow! (Abax) Meaningful Action (CUP).

### Message

While the Japanese kotowaza may be correct, not many Japanese students (and teachers) dare to ask questions or ask for help. But in fact, people want to help each other and can feel lonely when they cannot help anyone. Please help yourself and your students to change this way of being in the world. The world needs our help and we need to learn how to ask how we can help it be healthier.

## Asking May Be a Moment's Embarrassment; Not Asking is a Lifelong Regret

### 「たぶん」を尋ねるは一瞬の恥、尋ねずは一生の悔み

Asking for help is a crucial skill in our world. Social-emotional well being depends upon it. And yet most of us, and our children, avoid asking most of our lives for fear of looking stupid or bothering people. This workshop looks at "asking" and its many advantages and attributes. It will help teachers to explain to students how asking is allowed and actually benefits many people beyond ourselves. People actually enjoy and feel better when they are asked and allowed to help us. To not ask is like refusing to accept someone asking to fill your glass at a party. You keep them from helping you. It is rude. During this workshop we learn many "question and response" routines with songlets that train students to enjoy asking questions in and out of class. You will also experience social testing which involves students in asking for help with test questions.



講座番号

## KA-10

対象 中学校・高校教員

講義タイプ Lecture / Discussion

使用言語 英語



**小林真記**

こばやしまさき

神田外語大学外国語学部英米語学科教授

### Profile

神田外語大学英米語学科教授。神田外語大学大学院言語科学研究科TESOL修士課程兼任。外国語学部言語研究分野長。ブリティッシュコロンビア大学大学院言語・リテラシー教育学研究科博士課程修了。博士号(Ph.D.)取得。専門は、教育言語学、第二言語習得、第二言語教師教育。学内外で教員養成・教員研修に従事。

### Message

はじめまして。神田外語大学の小林真記と申します。本講座では、近年の第二言語習得や応用言語学の研究における文法の捉え方や文法とコミュニケーションを統合した指導法を考えていきたいと思っております。授業をコミュニケーションの場と捉えるという学習指導要領を踏まえて、主に英語で行う予定です。また、受講される皆さんが自らの教育実践を振り返るきっかけとなるような講座になればと思っております。お会いできるのを楽しみにしております。

## コミュニケーション重視の英語授業における文法指導を考える

英語教育の歴史において、文法の指導とコミュニケーションの指導とは対立的なものとして捉えられ、その間で振り子運動が繰り返されて来たと言われております。本講座では、近年行なわれている第二言語習得や応用言語学の研究を基に様々な活動を実際に行い、コミュニケーション重視の英語教育における文法の役割や指導法について考えて行きます。特にコンテキストを重視した文法項目の帰納的な提示や形式(form)、意味(meaning)、使用(use)の3側面を考慮した指導に焦点を当てる予定です。本講座は、単に授業方法(HOW)を紹介するものではなく、教師が学習者の経験や自らの授業実践を振り返り、言語観・言語学習観・言語教育観を必要に応じて見直していくためのレンズを提供することを目的としています。

講座番号

## KA-11

対象 中学校・高校教員 / 大学生

講義タイプ Lecture / Workshop

使用言語 英語



**Javier Salazar**

ジャビエル サラザー

神田外語学院 EIC 教員

### Profile

Javier has a Ph.D. in Human Informatics and has taught English to Japanese learners of all levels, from PreK-12 to Graduate School (and everything in between). His main research interests are Intercultural Communication, Gamification, Strategic Competence and the use of Humor in the EFL classroom.

### Message

As a teacher, have you ever struggled with helping your students overcome their fear of making mistakes when speaking in English? As a student, do you feel that it is difficult for you to communicate in English because of insufficient knowledge of Grammar & Vocabulary? If you answered yes to these questions, then this seminar is for you. The objective is to teach you the notion of 'strategic competence' and why it is important for the development of English communication skills.

## Strategic Competence: What is it, How to teach it and How to assess it

### コミュニケーションにおける方略的能力とは? どう教え、どう測るか

Successful and effective communication in English does not necessarily require impeccably perfect grammar or vocabulary. Although it is undeniable that we cannot overlook the teaching of grammar and vocabulary, I argue that developing 'strategic competence' in our students is much more essential for effective English oral communication. Strategic competence refers to the ability of a language learner to effectively convey his or her thoughts in spite of the grammar/vocabulary limitations he or she may have. Unfortunately though, this is a skill that is rarely taught in English classrooms in Japan. On this seminar, we will examine the notion of 'strategic competence' and explain the sort of activities and teaching strategies that can be used for developing it. In addition, we will give some pointers on how to assess this skill, giving examples of the kind of rubrics that are useful for evaluating communication skills in beginner and low-level students.

講座番号

## KA-12

対象 中学校・高校教員 / 大学生

講義タイプ Lecture / Workshop

使用言語 英語



**Javier Salazar**

ジャビエル サラザー

神田外語学院 EIC 教員

### Profile

Javier has a Ph.D. in Human Informatics and has taught English to Japanese learners of all levels, from PreK-12 to Graduate School (and everything in between). His main research interests are Intercultural Communication, Gamification, Strategic Competence and the use of Humor in the EFL classroom.

### Message

As a teacher, have you ever struggled with your students not being able to hold an English conversation for long? If your answer is yes, then this seminar is for you. Conversation skills are not only related with grammatical/vocabulary competence, but also with sociocultural and discursive competence. In this seminar we will examine this notion as well as how to teach it and assess it on your students.

## Developing Sociocultural and Discursive Competence in EFL Learners: Sports Metaphors for Developing Communication Skills

### 英語学習者に社会文化性と漫然性を学ばせる: コミュニケーション能力育成のためのスポーツメタファー

EFL Students in Japan are usually taught vocabulary, grammar, pronunciation, and speaking skills, but none of these are enough for actually being able to have a long and engaging conversation in English. Textbooks (specially beginner ones) are plagued with model dialogs comprised with short transactions such as "Hello, how are you? > Fine thank you, and you? > Fine, thanks. Goodbye! > See you!". However, although these short transactions are useful to initiate EFL learners into speaking, they are actually quite discrepant with how actual English conversations tend to happen in the real world. Part of the reason for this is that there are significant cultural differences on how an English native speaker and a Japanese speaker would expect a common conversation to flow. The other part of the reason is that 'discursive competence', which is the skill that allows a speaker to seamlessly flow within a conversation, is rarely taught or assessed in Japan. On this seminar, we will examine a pedagogical strategy that uses a set of five sports metaphors (ping pong, chess, bowling, tennis and basketball) for explaining, teaching and assessing 'discursive competence' and its cultural connotations.

講座カテゴリ「ICTを応用した授業に関する講座」

Category: ICT for English Classes

<p>講座番号 <b>KA-13</b></p>	<p>対象 中学校・高校教員</p> <p>講義タイプ Lecture / Workshop / Discussion</p> <p>使用言語 日本語・英語</p>	 <p><b>関屋 康</b> せきや やすし 神田外語大学外国語学部英米語学科教授</p>  <p><b>矢頭典枝</b> やず のりえ 神田外語大学外国語学部英米語学科教授</p>  <p><b>小中原麻友</b> こなかはら まゆ 神田外語大学外国語学部英米語学科専任講師</p>
------------------------------	--	--

## 世界の英語を学ぶ

～神田外語大学・東京外国語大学共同開発の無料ウェブ教材を活用して～

「世界の英語モジュール」の特徴として、1) 動画を通して世界の英語変種の「違い」を学ぶことができる、2) 社会言語学、英語音声学、方言学などの専門分野の研究に基づいた学術的な教材である、3) 無料でインターネット配信しているため、社会で広く活用される、といった点が挙げられます。

本講座では、まず、本ウェブ教材を活用して、すでに公開している8つの英語の特徴について、語彙、発音、語法の側面から具体的に解説します。取り上げる英語は、アメリカ英語、イギリス英語、カナダ英語、オーストラリア英語、ニュージーランド英語、アイルランド英語、シンガポール英語、インド英語です。これらの英語を聞いて、どれくらい理解できるのか、どのような印象を受けるのか、といった点を検証します。

後半では、受講者たちがそれぞれの教育現場における英語の多様性の現状について意見交換したうえで、外国人教員が話す多様な英語を生徒たちにどのように説明するのか、生徒たちにどのような英語を学ばせるべきなのか、といった点についてディスカッションする予定です。

### Profile

関屋 康: 神田外語大学教授、博士、専門は英語音声学、英語教育学  
矢頭 典枝: 神田外語大学教授、博士、専門は社会言語学  
小中原麻友: 神田外語大学専任講師、博士、専門は語用論、会話分析

### Message

日本の英語教育の現場では依然としてアメリカ英語を規範にしていることが多いように思われます。近年、世界のさまざまな地域から来日した人々が英語を教える状況が増えてきており、学習者だけでなく、日本人教員も戸惑うケースが報告されています。日本でも英語の多様性を前向きに捉え、アメリカ英語以外の英語は「間違い」とあるという意識を改める時にきています。そのような認識のもとに、日本人が多様な英語変種の違いを体系的に学習できる無料ウェブ教材「世界の英語モジュール」が、神田外語大学と東京外国語大学の共同研究によって開発されました。この英語モジュールを活用して、世界の多様な英語を学び、英語教育の在り方について考えましょう。

<p>講座番号 <b>KA-14</b></p>	<p>対象 中学校・高校教員</p> <p>講義タイプ Workshop</p> <p>使用言語 英語</p>	 <p><b>Scott Sustenance</b> スコット サステナンス 神田外語大学 ELI 語学専任上級講師</p>
------------------------------	---	---

## #vocabulary - the Keyword Method in a Digital Classroom 語彙ーデジタルテクノロジーを使ったキーワードメソッド

First, I will explain the theory behind the method, and participants will have hands-on experience at creating their own Keyword Sentences. Then I will show how these sentences can be moved into the visual mode using Google Images and Pic Collage, an image manipulation application. Finally, I will explain how the hashtag feature of Instagram can be used to create an online vocabulary-learning community using the meme-like images.

### Profile

Scott Sustenance is a Senior Lecture at Kanda University of International Studies. He has a Master of Arts in Applied Linguistics from Griffith University, Australia, and his research is focused on the use of the Keyword Method for remembering vocabulary.

### Message

The Keyword Method is a mnemonic technique for remembering L2 vocabulary items. Despite studies that show it is more effective than rote learning, rote learning still continues to be the main method of vocabulary instruction in Japan. This presentation will show you how to combine the Keyword Method with digital technology to create a fun and engaging multi-modal learning environment.

<p>講座番号 <b>KA-15</b></p>	<p>対象 中学校・高校教員</p> <p>講義タイプ Lecture</p> <p>使用言語 日本語</p>	 <p><b>北村孝一郎</b> きたむら こういちろう 神田外語大学外国語学部国際コミュニケーション学科専任講師</p>
------------------------------	---	--

## ICTを活用した英文法指導： 『英文法授業ノート』とデジタル・コンテンツを併用した授業実践

この講座は、英文法指導におけるICT活用の例として、板書と解説をデジタル化したテキストと身の回りにあるデジタル・コンテンツを使った授業の進め方を紹介し、その準備と実践のスキル共有を目的としています。

デジタル化したハンドアウトの活用例で取り上げる『英文法授業ノート』は、紙媒体の教材(授業で用いるにあたりICT機器は不要)であり、自学習用として、さらには新人の英語教師にとっては板書や解説の参考用として用いることもできます。板書においては下線を引く・色文字を使う・間隔を置くなどの提示、解説においては段階的に理解を助ける提示方法を紹介します。

デジタル・コンテンツの活用例では、音声や映像素材を授業に導入するねらいとタイミング、その効果的な提示方法を紹介します。また、教室でのプロジェクターやテレビモニター利用に際しての注意点についても取り上げます。なお、英語音声教材を活用した指導方法と授業準備については、詳細をまとめた実践報告資料をPDFファイルにて提供します。

最後に、英語授業におけるICTの有効利用について参加者間でアイデアを出し合うことで理解を深め、それぞれの教材研究力の向上を目指します。

### Profile

上智大学卒業。シドニー大学よりM.A.およびM. Phil.取得。民間企業勤務後、NHKラジオ講座ディレクター、高校、大学講師を経て現職。英語教育、異文化間コミュニケーション研究の他、NINTENDO DS「えいごで旅するリトル・チャロ」やNHKエデュケーショナル『基礎LEAD』などICTを活用した英語教材開発に従事。

### Message

はじめまして、神田外語大学の北村孝一郎です。皆さんは、授業のために自分で作成した教材をどれだけお持ちですか。また、その中に他の先生と協同で作成したものはどれだけありますか。生徒のニーズに応えるため様々な工夫を形にしている先生が多いにもかかわらず、教材研究はとく個人作業になりがちではないでしょうか。この講座では、英文法指導における板書とハンドアウト、さらに身の回りにある音声や映像素材を利用した授業展開の例を紹介し、普段の授業準備に役立つスキルの共有を図ります。教材研究力の向上を共に目指す方々の参加をお待ちしています。

<p>講座番号 <b>KA-16</b></p>	<p>対象 中学校・高校教員</p> <p>講義タイプ Workshop / Discussion</p> <p>使用言語 英語</p>	 <p><b>Ryan Lege</b> ライアン レギー 神田外語大学ELI主任講師</p>
------------------------------	--	--

## The Changing Role of ICT in English Education 英語教育におけるICTの役割変革

This session will first explore the history of technological integration into the classroom. The affordances and benefits of technology will be discussed with participants. We will then proceed by covering the teaching methods and philosophies that underpin the integration of technology in the classroom such as blended learning, the flipped classroom, and the SAMR model. Following this, there will be a session talking about ways technology is currently being used in the classroom. Participants will take part in demonstrations of lesson content taught using mobile technologies. We will finish with a discussion the future of language education including topics such as AI and machine learning, Virtual Reality (VR), Augmented Reality (AR), and Distance Learning.

### Profile

Ryan Lege is currently the Principal Lecturer of Professional Development in Information and Communications Technologies at Kanda University of International Studies. He received his teaching certification and MA TESOL from Brigham Young University.

### Message

The field of English language education currently stands at a crossroads of technological innovation and tradition. Information and Communications Technologies (ICT) will play an integral role in defining future educational practice due to rapid advances in widely available technologies. In this session, we will examine the current state of educational technology in the language classroom and learn to use various tools to enhance language education.



## KA-17

対象 高校教員  
講義タイプ Workshop / Discussion  
使用言語 英語



**Sky Mallari**  
スカイ マラーリ

神田外語学院EIC教員

### Profile

Ph.d (candidate) in Global Studies - Tokyo University of Foreign Studies, M.A. in Applied Linguistics, M.A. in English Language Studies, B.A. in Communication Arts. " Social Media Apps and Netflix to the Rescue: Promoting Literacy and Cultural Awareness while Motivating Japanese High-school students in the EFL Classroom."

### Message

Of the abundance of moving parts and components that one can tweak in the machinery of a language classroom, social media apps and Netflix are some of the innovations that we can utilize to boost literacy, cultural awareness and raise student's motivation in the EFL classroom. I'm thrilled to share with you task-oriented communicative activities where we can integrate these apps. I'm excited to meet you all !

## Social Media Apps and Netflix to the Rescue: Promoting Literacy and Cultural Awareness while Motivating Japanese High-school Students in the EFL Classroom ソーシャルメディアアプリとNetflixによる救済: 識字力と文化的認識を高め、日本の高校英語学習者の学習意欲を高める

The aim of this course is to learn about innovative teaching strategies and task-based communicative activities that they can use in the classroom setting through the use of social media apps and Netflix.

Teaching Objectives:

1. Learn the Foundations and benefits of a High-Tech and Collaborative Learning environment.
2. Be familiarized with different social media apps ( that most students use) and Netflix.
3. Gain knowledge on some teaching strategies applicable for a high-tech and collaborative EFL classroom.
4. Practice implementing Task-based communicative activities appropriate for the age group and proficiency level of students.
5. Brainstorm or pool topics, ideas, films that promotes cultural awareness in their classroom.
6. Be able to share to the group takeaways of the workshop and what they will incorporate in their classrooms.

講座番号

## KA-18

対象 中学校・高校教員  
講義タイプ Workshop  
使用言語 英語



**Kieran Julian**  
キーラン ジュリアン

神田外語学院 EIC スーパーバイザー

### Profile

Kieran Julian is a curriculum Supervisor at Kanda Institute of Foreign Languages. His fields of academic interest are digital literacy, CLIL, and the use of VR/AR in the classroom.

### Message

As Virtual Reality (VR) becomes more common to our professional and personal life it is our role as educators to understand how it can be successfully used as part of the communicative language classroom. This presentation will focus on practical and simple ways in which educators at all levels can use VR in their classrooms.

## A Practical Approach to Using VR in the Language Classroom 語学授業のためのVR使用の具体的方法

Virtual Reality has come to represent the new advances in language education and technology, while the introduction of affordable VR headsets has brought VR into the regular language classroom. This presentation will offer an in-depth analysis of how teachers can take advantage of the VR headset "Google Cardboard" to offer their students an immersive and worthwhile experience. The principal benefit of using "Google Cardboard" is that it costs around one thousand yen and works with most smartest phones. Providing a set up that is very easy to operate and extremely cost effective and portable at the same time. During the workshop I will share examples of how to implement VR into the classroom both in a collaborative manner and as part of a class based project. Finally, I will explore some of the challenges teachers and students may experience while using VR.

講座カテゴリー「CLIL授業例を紹介する講座」

Category: CLIL

講座番号

## KA-19

対象 中学校・高校教員  
講義タイプ Workshop  
使用言語 日本語・英語



**藤村 朋子**  
ふじむら ともこ

神田外語大学外国語学部  
イペロアメリカ言語学専任講師

### Profile

神田外語大学外国語学部英米語学科卒業。アリゾナ州立大学にてMA (文化人類学)、モントレー国際大学院にてMA (TESOL)、テンプル大学にて博士号(教育学)取得。2006年より神田外語大学、東京経済大学、東京富士大学にて英語教育に従事。2013年に神田外語大学イペロアメリカ言語学専任に着任。研究分野は教育言語学、特にプロジェクト型学習、内容重視の言語教育。

### Message

皆さん、こんにちは。神田外語大学イペロアメリカ言語学専任講師の藤村朋子です。海外に出たり、日本で外国の方と話したりする際、日本や日本文化について尋ねられることはありませんか?このワークショップでは、日本文化を英語で紹介できるようになるための中高生向けグループ活動を取り上げます。絵や写真を使って口頭説明をしたり、生徒自らが調べて発表したりする発信型の活動です。ワークショップ後半には、皆さまにもいくつかの中高生向け英語活動を体験していただきたいと思いますので、どうぞ楽しんでご参加ください。ワークショップ会場でお会いできるのを楽しみにしております。

## 日本文化を英語で紹介しよう ～中高生向けの発信型グループ活動～

このワークショップでは、日本文化を英語で紹介するためのさまざまなグループ活動を取り上げます。例えば、お正月・お盆・大晦日といった年中行事を英語で説明するスピーキング活動では、これらの行事を説明するのに役立つ英語表現やペアワーク例を紹介しします。また、生徒たちが「日本的なもの」を写真に撮って説明文を書くフォトジャーナルでは、ワークシート形式のプリント作成例を紹介したり、生徒たちが自分なりの表現を見つけていくことを教員がどのようにサポートできるかを考えたりします。さらに、長期的な授業活動として、生徒自らがテーマを決め、数週間かけて調査・発表する発信型グループ活動の流れや教材開発の例を提示します。ワークショップでは、教材や参考資料として使用できる英語・日本語の図書もご紹介したいと思います。ワークショップ後半では、いくつかの活動を実際に体験していただき、中学校・高校での実践について現場の先生方皆さまに意見を交換していただく機会も設けたいと思います。

講座番号

## KA-20

対象 小学校・中学校・高校教員  
講義タイプ Workshop  
使用言語 英語



**須藤 達也**  
すどう たつや

神田外語大学外国語学部英米語学科講師  
駒沢大学講師

### Profile

上智大学外国語学部卒業  
テンプル大学大学院修了  
神田外語大学、駒澤大学講師  
英語落語教室主宰

### Message

英語落語を演じる際の高座名は鹿鳴家英楽(かなりや・えいらく)です。落語が国語の教科書にも英語の教科書にもとりあげられています。落語を通して、英語の面白さを、あるいは日本文化の面白さを英語で伝えることができるかと思っています。

## 英語落語で会話力アップ!

落語の基本説明 中学の教科書、New Horizonに出てくる落語の解説を参考にしながら、落語400年の歴史や演じる際の下(かみしも)の規則、扇子や手ぬぐいの使い方、などを学びます。また、Sunshineに出てくる小唄や、New Crownに出てくるA Pot of Poison (附子)、One Worldに出てくるThe Zoo(動物園)を例にとりながら、小唄や落語に挑戦します。  
最後、英楽による落語の実演。

扇子と手ぬぐい持参(希望者のみ)

以下の英語小唄のウェブサイトをご参考までに見ておいてください。  
サイトを探す際のキーワードは、英語いいね!です。  
<http://school.jorudan.co.jp/eigolike/pc/rakugo/index.php>

講座カテゴリ「4技能入試対策」

Category: Commercial Certificate Exams

講座番号

## KA-21

対象 中学校・高校教員

講義タイプ Workshop

使用言語 日本語・英語



上原 雅子

うへはら まさこ

神田外語大学外国語学部英米語学科特任講師

### Profile

King's College, London M.A. in English Language Teaching and Applied Linguistics 修士課程修了。The New School University TEFL( Teaching English as a Foreign Language) Certificate 取得。大学その他でTOEFL指導、4技能統合型の指導に携わる。著書に「大学入試『英語4技能』試験対策 Writingスキルが高まる必修ポイント10」「大学入試『英語4技能』試験対策Speakingスキルが高まる必修ポイント8」共にくもん出版、「最強のTOEFL iBT入門」コスモビアなどがある。

### Message

大学受験に活用される民間試験では「情報を整理して正しく伝える力」「自分の意見を自分の言葉で正しく伝える力」が試されます。また英語での実際のコミュニケーションでは、聞く、読む、書く、話すなどの異なる技能を統合し、駆使して表現することが必要です。本講座はワークショップ形式で、主にListening, Speaking, Readingを統合して学ぶ方法を体験していただきます。

## 4技能型試験に向けた指導のポイント -Listening, Speaking, Reading

4技能の能力を効率的に高めるために、2つ以上のスキルを統合して指導する方法をワークを実際に体験しながら考えます。コミュニケーション力を高めることとはどういうことか、また4技能型テストに対応するための指導法も盛り込みます。

ワークの内容

- 1) 聞いた情報を自分の言葉でまとめて話す練習
- 2) 与えられた課題に対し、自分の意見を1分間で話す練習
- 3) Listening力を高めるためのReading指導

携帯電話、スマートフォン、その他録音機器をお持ちでしたらご持参ください。

講座番号

## KA-22

対象 中学校・高校教員

講義タイプ Workshop

使用言語 日本語



上原 雅子

うへはら まさこ

神田外語大学外国語学部英米語学科特任講師

### Profile

King's College, London M.A. in English Language Teaching and Applied Linguistics 修士課程修了。The New School University TEFL( Teaching English as a Foreign Language) Certificate 取得。大学その他でTOEFL指導、4技能統合型の指導に携わる。著書に「大学入試『英語4技能』試験対策 Writingスキルが高まる必修ポイント10」「大学入試『英語4技能』試験対策Speakingスキルが高まる必修ポイント8」共にくもん出版、「最強のTOEFL iBT入門」コスモビアなどがある。

### Message

4技能の中でWritingは文法の基礎があれば比較的伸ばしやすい技能です。しかし、実際には指導の先生の負担は重く、指導に多く時間をとれない技能でもあります。この講座では大人数クラスでの効率的なWriting指導はどうあるべきか、実際にワークを体験し考えます。Writing力の向上はひいてはSpeaking力の向上につながりますので、Speakingの指導についても触れます。

## 4技能型試験に向けた指導のポイント -Writing

教師は最小の負担で、生徒は最大限の効果を上げるためのWritingの指導方法を提案します。

講座の内容

- 1) 相手に伝わるWritingとは
- 2) 構成のしっかりしたWritingとは
- 3) 学生がWritingをする前の指導
- 4) 学生がWritingを終えた後の指導

以上をワークを通し提案します。

講座カテゴリ「小学校英語、児童英語に関する講座」

Category: Elementary School English Classes

講座番号

## KA-23

対象 小学校・中学校・高校教員  
小学校教員や児童英語に関わる  
指導者・指導者を目指す方

講義タイプ Workshop

使用言語 日本語・英語



河合 裕美

かわい ひろみ

神田外語大学  
児童英語教育研究センター(CTEC)専任講師

### Profile

上智大学外国語学部英語学科卒業、獨協大学大学院修了(英語教育学修士)。青山学院大学大学院博士後期課程修了(学術博士 初等英語教育)。専門は初等英語教育、応用言語学、音声教育。都内や千葉県内小学校の英語授業を担当。公立小学校における効果的な指導法や子どもの英語音声習得などを研究している。多くの自治体の教員研修の講師を務める。

### Message

小学校英語が大きく変わります。このワークショップでは、まず、つなぎテキスト「We Can!」を使ってご参加の先生方に高学年の実際の授業を体験していただきます。音声・文字指導をどのように組み込んで指導しているのか、来年度からの検定教科書を想定して、どのように評価していけばよいのか、指導法・評価方だけでなく、すぐにでも現場でお使いいただける効果的な指導のアイデアをご紹介します。ふるってご参加ください!

## まだ間に合う!小中接続を意識した音声・文字指導 ～つなぎテキスト「We Can!」を使って～

来年度によいよ小学校英語が教科になります。高学年では、従来の「聞く・話す」に、「読む・書く」の言語活動が加わったことが大きく異なる点です。どのように指導していけばよいのか、多くの先生が不安に思っていることでしょう。小学校英語の「読み書き」指導は、中学・高校のリーディングやライティングと同じではありません。十分な音声指導をすることによって、児童は次第に英語の音(音素)や英語らしい韻律(リズムなど)の特徴を認識できるようになり、その認識の力(音素認識・音韻認識)こそが読み書きの根幹の力を育てていくことになるのです。一方で、つなぎテキスト「We Can!」では、従来の「話す(やりとり)」に加え、「話す(発表)」能力を育成する目標も掲げられおり、音声・文字指導と「話す」能力を有機的に結びつけていくことが求められます。

本ワークショップでは、具体的にどのような指導していけばよいのか、小中連携を意識した指導のアイデアをご紹介します。小学校だけでなく、中高の先生方、小学校英語や児童英語に関わっている先生方、指導者を目指している先生方もふるってご参加ください。

講座番号

## KA-24

対象 小学校教員

講義タイプ Workshop

使用言語 日本語



内山 工

うちやま たくみ

神田外語大学外国語学部英米語学科講師

### Profile

信州大学教育学部卒業後東京都にて小学校教員として勤務。在職中にオーストラリア・クイーンズランド州立グリフィス大学大学院にてMaster of Education, Master of TESOLを取得。小学校退職後神田外語大学大学院言語科学研究所英語学専攻英語教育課程にてMaster of Arts取得、その後東京都中央区公立中学校英語講師を務め、現在神田外語大学で「児童英語指導法」の講座を担当している。

### Message

A(エイ)B(ビー)C(スイー)・・・Z(ジー)は知っていても、alligator, elephant, kangarooの単語を初めて見た時、子供達は読めるでしょうか。A、B、Cは文字の名前であり読み方ではないのです。一つ一つの文字が持つ音(音素)を知っていれば、初めて見る単語を読めるようになります。「読む書く」指導で、音や音素、音韻、音節と関連させながら文字が書けるようになる方法は様々です。本講座ではボエム、体、手話(American Sign Language)、絵本等を使った文字指導の方法を体験しましょう。そして文字指導のためのワークシートを制作して2学期からの授業準備に役立ててください。

## 小学生に教える読み書き指導の方法 ～音と文字を関連させて～

本講座は、参加の方々が実際に声(音)を出してみたり、動作してみたり、歌・ボエム・絵本などを読んできたり、実技を通して学びます。グループで相談する中で、自分の意見を参加の方々と共有しながら深めたり、文字指導のためのワークシートを制作して様々なワークシートを開発したりして、役立つ教材作りにつなげます。「評価」については、主にパフォーマンス評価について紹介します。評価項目・評価基準(尺度)・評価規準(到達の内容)などルーブリック評価について、どんな項目をどんな観点で評価すればよいか、基準(尺度)はどうするかなど、参加の皆さんの話し合いを通して、それぞれの現場に応じた評価方法作成のヒントが得られます。主な内容は次の通りです。

- 1) 英語における音素認識を高める方法(alliteration, rhymes, etc.)
- 2) フォニックスブックとホール・ランゲージ(絵本)
- 3) 歌やボエムを使った文字指導(chanting, nursery rhymes etc.)
- 4) 体を使った文字指導(learning by doing)
- 5) 読みの方法(guided reading, choral reading etc.)
- 6) 「読むこと」「書くこと」の評価の方法(using rubrics)

講座番号

## KA-25

対象 小学校・中学校教員

講義タイプ Workshop

使用言語 英語



**Andy Lankshear**

アンディー ランクシャー

郡山ザベリオ学園専任教員

### Profile

Andy Lankshear has taught young learners for twenty years and has a MEd from Massey University, NZ. Through Kanda Gaigo Group, Andy has made online training modules for teachers of young learners. He has also co-authored a series of skills books called English Language Booster through Pearson Japan.

### Message

We often communicate because we want to know something others know or share something we know with others, i.e. there is an information gap between people. This lecture will introduce you to the rationale for information gap activities in the young learner classroom then offer you some common activity types, such as ranking and categorizing. For each type, Andy will provide you with some ready-to-use activities for your classroom.

## What's Missing? Designing and Implementing Information Gap Activities for the Young Learner Classroom

### 「なにか足りない？」児童英語教室におけるインフォメーション・ギャップ学習活動の計画と実践

Information gap activities are a staple part of communicative language-based teaching. Having a repertoire of information gap activities can help teachers with their planning and delivery of lessons by making the classroom activities more engaging, motivating and meaningful, i.e. there is a reason to communicate because there is a gap in the students' knowledge. This session will introduce the three types of information gap activities; one-way, two-way and jig-saw. It will also categorize each of these types into five genres suitable for the young learner classroom; fact-finding, ranking, categorizing, ordering and picture-drawing. For each of these categories I will provide information gap activities that are one-way, two-way and jig-saw based. It is hoped that by providing the teachers with a list of activities that are categorized in this way, they are then able to make informed choices about which activity is fit-for-purpose for the goals of their lesson.

講座番号

## KA-26

対象 小学校・中学校教員

講義タイプ Workshop

使用言語 英語



**Andy Lankshear**

アンディー ランクシャー

郡山ザベリオ学園専任教員

### Profile

Andy Lankshear has taught young learners for twenty years and has a MEd from Massey University, NZ. Through Kanda Gaigo Group, Andy has made online training modules for teachers of young learners. He has also co-authored a series of skills books called English Language Booster through Pearson Japan.

### Message

This session will introduce the presenter's free online training website for teachers of young learners, which was made in collaboration with Kanda Gaigo Group. You will be guided through the online resource and given supporting printed material. You will also be given the opportunity to expand on the information within the modules through a question and answer session.

## Introduction to Online Resources for Teachers of Young Learners 児童英語教師のためのオンライン教材・資料のご紹介

There are a number of institutions and individuals who offer free, online resources for teachers of young learners. This session will introduce to you a number of these. It will be headlined by the soon-to-be released online website developed by the presenter in collaboration with Kanda Gaigo Group. The presenter will take you through some of the content of this resource, including its short, practice-focused modules and explain how these can be used to improve your teaching and as a reference for your continuing professional development. In addition, the presenter will introduce a number of other websites that either offer useful resource banks of activities and/or opportunities for further professional development.

講座番号

## KA-27

対象 小学校・中学校教員

講義タイプ Workshop

使用言語 英語



**Daniel Dusza**

ダニエル ドゥーサ

神田外語学院 EIC 専任教員

### Profile

Daniel G. Dusza (MEd, MBA, MPM, BEng)  
Doctor of Education (Candidate) - University of Southern Queensland (USQ)  
Master of Education TESOL/TEFL - USQ  
Master of Business Administration - USQ  
Master of Project Management - USQ  
Bachelor of Engineering (Computing and Biomedical) - USQ

### Message

This workshop presents a CLIL (Content Language Instructed Learning) approach to giving students enough computer-literacy skills to develop and present their own self-introduction. The lesson was modified from an existing Japanese grade-6 elementary school curriculum. This workshop includes a detailed demonstration of how this process was implemented in a G6 Japanese elementary school-class. The demonstration will be followed by a problem-solving and implementation discussion.

## CLIL Approach to Introducing Computer Literacy - Making a self-introduction

### コンピューターを使ったCLIL授業 - 自己紹介をする

English language teachers in Japan now have more flexibility in how much additional language they can use in the classroom. This means teachers have a greater opportunity to include language that helps students in other classes, beyond the English class. Therefore, content and language instruction (e.g., CLIL) can be used with greater effect.

The benefits of using a CLIL approach over a task-based or project-based approach will first be discussed. Participants will watch and learn how elementary students were given the necessary language and skills to use a computer in a language class, to create their first self-introduction in a second language. This workshop demonstrates each step in the process which provides students with the autonomy to competently deliver their first self-introduction, completely from the skills they acquired in the 45-minute lesson.

Finally, participants will then discuss the problems teachers face and also brainstorm improvements to this approach.

Please bring iPad, Smart phones, or portable computing devices.

A smile and lots of energy are also very important.

講座カテゴリー「英語学習活動のアイデアを紹介する講座」 Category: Practical Ideas for Communicative English Classes

講座番号

## KA-28

対象 中学校・高校教員

講義タイプ Workshop

使用言語 英語



**Phoebe Lyon**

フィービー ライオン

神田外語大学 ELI 主任講師

### Profile

I am a Principal Lecturer at KUIS. I have a BSc and PGCE and MA in Education. I have been a teacher and teacher trainer for over 20 years with experience in high schools, universities and language schools.

### Message

Would you like ideas on how to get your students to work collaboratively whilst appealing to their creativity? Do you need ideas on how to get your students out of their chairs during a class to appeal to different learning styles and to keep your lessons engaging? This workshop is designed to share ideas on how to make classes more active and less paper based.

### InterACTIVE Classroom Activities

#### インタラクティブな学習活動

I will share activities that take learning off the page and get students' whole bodies involved in the learning process. The activities will cater to a range of linguistic skills whilst promoting interaction, often in an active manner.

- Problem solving and goal setting activities: build rapport and help students become aware of the need to set realistic goals
- Getting creative with grammar
- Taking typical paper-based tasks and making them more active

There will be a chance for participants to reflect on the activities and discuss how they might be of use in their own contexts.

講座番号

## KA-29

対象 中学校・高校教員

講義タイプ Workshop

使用言語 英語



**Sam Morris**

サム モリス

神田外語大学 ELI 語学専任上級講師

### Profile

Sam Morris is a lecturer in the English Language Institute at Kanda University of International Studies. He holds a Master's degree in TESOL and is a PhD Candidate at the University of Leicester in the UK.

### Message

Hi. My name is Sam Morris, and I would like to help you to support your students to feel more comfortable speaking English during classes. In this session we will discuss the reasons that students do not speak out, and then consider potential solutions to these issues. We will also think about how to design classroom activities which encourage students to communicate.

### Supporting Students to Communicate in English during Classes

#### 英語コミュニケーションのための生徒支援

Increasingly, teachers of English in Japan are expected to help their students to use English for communicative purposes, but it is not always easy to get students to speak out during classes. The purpose of this session is to consider how we teachers can better support and encourage students to communicate in English.

During the first part of this session we will discuss the many reasons that students don't speak English in class. We will take an empathetic view that students often choose not to speak English because of conditions outside of their control, and this will involve us looking critically at our own teaching. In the second part of the session we will discuss solutions. We will consider how we can facilitate a welcoming classroom environment and how we can design activities which maximize communication.

講座番号

## KA-30

対象 中学校・高校教員

講義タイプ Workshop

使用言語 英語



**Amelia Yarwood**

アメリア ヤーウッド

神田外語大学セルフアクセラーニングセンター(SALC) 専任講師

### Profile

Amelia Yarwood completed her Bachelors with a double degree in Arts and Education at the University of New South Wales, Australia in 2012. She recently graduated from Sophia University with a MA Linguistics (TESOL) with a dissertation on L2 Motivation.

### Message

As someone who taught JHS boys in Kanagawa, I understand how difficult it can be to motivate students to learn English. The materials and activities I will introduce to you have been developed based on current motivational research and used with students from JHS through to University. They challenge students but are also fun to use. Come along and see for yourself.

### Practical Activities to Promote Imagination and Motivated Learning

#### イマジネーションと学習意欲を盛り立てる実践的学習活動

This workshop will introduce several activities that can be used to help students to imagine their future and make language learning plans that will help motivate them in and out of class. Participants will be given a short introduction to the theory behind the activities before testing out the activities themselves. After familiarising themselves with the activities, participants will discuss how they could be used in their own classrooms. Ways of scaffolding students' responses and ways of modifying the activities so they suit JHS or HS classrooms will also be discussed. This workshop will require participants to be active in discussing and problem solving.

講座番号

## KA-31

対象 中学校・高校教員

講義タイプ Workshop / Discussion

使用言語 英語



**Brian Damm**

ブライアン ダム

神田外語学院 EIC スーパーバイザー

### Profile

Brian J. Damm earned his Bachelor's Degree in Secondary Education from Montana State University and his Master's Degree from Teachers College, Columbia University. With over 30 years teaching experience in Japan he is currently a Curriculum Supervisor in the English for International Communication program at Kanda Institute of Foreign Languages.

### Message

Hello! It has been my experience, in both leading and attending workshops, that I come away reinvigorated and full of new ideas. It can vary from simple classroom management techniques to more profound philosophy of education insights. I invite you to come and join me along with other colleagues as we endeavor to "activate our students" to be great communicators in English.

### Getting Out of the Rut : How to Create More Excitement

#### and Motivation in the ESL Classroom

#### マンネリからの脱出: 英語授業に楽しさとやる気を創出する方法

Year in and year out teachers are challenged to create exciting lessons that motivate their students. For some this seems a daunting task, but it need not be so. If you would like to learn new techniques and strategies in creating exciting lessons and activities, please join this workshop. The session will cover activities aimed at improving all four of the macro-language skills of Reading, Writing, Speaking and Listening.

講座番号

## KA-32

対象 高校教員

講義タイプ Workshop

使用言語 英語



**Sean Green**

ショーン グリーン

神田外語学院 EIC スーパーバイザー

### Profile

Title - Supervisor, Kanda Institute of Foreign Languages.  
Educational Background - Journalism and Teaching English as a Second Language. Have taught English in Japan at every level, from kindergarteners to business professionals. Currently I'm a supervisor in the EIC program at KIFL.

### Message

Debate does not have to be difficult or painful! If you give young people the right tools and training, they will enjoy class debates and so will you. This workshop-style course will offer methods, activities, resources and plenty of topics for teaching this very important skill.

## Easy Methods for Making Debate Fun and Meaningful ディベートを楽しく有意義にする簡単な方法

This workshop-style course will offer methods, activities, resources and topics for teaching debate. We will discuss the life-long benefits of being able to defend a position or persuade others to see your point of view. We will also learn how to use age- and level-appropriate examples to teach important ethical traditions in Western philosophy and rhetorical conventions used in effective debating. In the workshop, we will practice phrases and language patterns for debating and we will have a sample debate on a topic.

講座番号

## KA-33

対象 中学校・高校教員

講義タイプ Workshop

使用言語 英語



**Anthony DiGiulio**

アンソニー ディジュリオ

神田外語学院 EIC 専任教員

### Profile

Anthony DiGiulio received his Master's Degree in TESOL from the University of Birmingham. His primary research interests include computer-assisted language learning and motivation. He has been teaching in Japan for 10 years.

### Message

In today's day and age, YouTube is king and quality video content can be produced in a bedroom. I have no doubt that your students have something to say to the world. This workshop will help you help them get it out in a fun and meaningful way.

## Tools and Tips for Getting Students to Produce Video Content 生徒に英語のビデオ作品を作らせるツールとコツ

Believe it or not, Japanese students of a wide range in age and ability can produce videos. Depending on the type of video being produced, students may be required to engage in critical thinking, discourse analysis, and utilize all of their linguistic knowledge to write and produce content which can be viewed by people all over the world. I will share tools and techniques to aid students in overcoming potential challenges they may face in process.

This workshop will focus on:

- teaching your students to use technology that they already have (smartphones and tablets) to create video content in English
- a detailed example lesson plan and example student-produced videos
- best practices for producing videos with minimal technology as well as introduce possible upgrades if funding is available

講座番号

## KA-34

対象 高校教員

講義タイプ Workshop

使用言語 英語



**Daniel Dusza**

ダニエル ドゥーサ

神田外語学院 EIC 専任教員

### Profile

Daniel G. Dusza (MEd, MBA, MPM, BEng)  
Doctor of Education (Candidate) - University of Southern Queensland (USQ)  
Master of Education TESOL/TEFL - USQ  
Master of Business Administration - USQ  
Master of Project Management - USQ  
Bachelor of Engineering (Computing and Biomedical) - USQ

### Message

Participants will experience three activities that have been consistently effective in improving motivation, attention, memory, and fluency. These well-established, theoretically-based activities include Quick-Talk (a communicative approach (CLT) to learning conversation skills), PiQuiz (a CLT approach to descriptive tasks), and RW-Fluency (a CLT approach to reading and writing fluency). Participants should leave this workshop with enough confidence to implement these CLT activities.

## CLT Activities That Improve Communicative Competence, Motivation, and Participation 会話能力と意欲と積極性を育てるコミュニカティブな学習活動

Reaching every students every time requires more than enthusiastic teaching, it requires a collaborative effort from the class. While some classes may seem impossible to reach, this workshop aims at helping teachers reach more students than ever before.

Three, 15-minute activities (Quick-Talk, Pic-Quiz, and RW-Fluency) will be demonstrated. These activities become autonomous self-directed communicative tasks, which students eventually do by themselves. After the demonstration, the workshop group will discuss how these activities can be used to support learning skills and language competency, thereby improving communicative competence, and consequently removing the barriers to motivation and improving participation.

This workshop puts theory into practice. The theoretical basis for this approach is drawn from Nation's (2007) Four Strands, which is derived from the input hypothesis (learning from extensive, repeated reading and listening to stories with abundance of contextual cues), and the output hypothesis and the development of speaking and writing literacy.

講座番号

## KA-35

対象 中学校・高校教員

講義タイプ Lecture

使用言語 英語



**Jeffrey McEntire**

ジェフリー マッケンタイア

神田外語学院 EIC 専任教員

### Profile

Jeffrey McEntire, M.A., Intercultural studies, ESL teacher for nine years is from Dallas, TX, USA and teaches at Kanda Institute of Foreign Languages. He has experience teaching reading and essay writing to American middle and high school students.

### Message

Building upon last year's presentation, this presentation will introduce activities related to problem-solving (e.g., the six hats) and rhetoric (e.g., pathos) to prepare junior and high school students for a developing an argument. While such arguments will have applications for writing and presentations, these skills will be applied to a debate context.

## Making an Argument: Problem-Solving, Critical Thinking, and Rhetoric 口論する：問題解決力、批判能力、巧みな言葉遣いの育成

Organizing, reasoning, and exemplifying are three critical measures for debating. Several rhetorical devices and some problem-solving techniques will be presented that address each of these assessment categories. For example, the rhetorical device "pathos" appeals to one's audience with both sensory and emotional language and thus offers practical guidance for developing vivid examples and sound reasoning.

The first half of this seminar will be a lecture that explains how to simplify and implement rhetorical devices for students. This will be followed by an opportunity for participants to discuss ways of applying the knowledge from the lecture to specific writing and debate activities for junior and high school teachers.

講座番号

KA-36

対象 中学校・高校教員

講義タイプ Lecture / Workshop

使用言語 英語



Jeffrey McEntire

ジェフリー マッケンタイア

神田外語学院 EIC 専任教員

### Profile

Jeffrey McEntire, M.A., Intercultural studies, ESL teacher for 10 years is from Dallas, TX, USA and teaches at Kanda Institute of Foreign Languages. He has experience teaching reading and essay writing to American middle and high school students.

### Message

To equip junior high and high school students to think more critically about narrative, an analytical framework (Paul Ricoeur's Hermeutical Arc) and an accompanying reading method (Roland Barthes' post-structuralism) will be introduced by lecture, which will be followed by a workshop in which these ideas will be applied to both an extensive and an intensive reading.

## Reading Narrative: A Framework, a Method, and Activities 物語を読む：構成、方法、活動

Paul Ricoeur's hermeneutical arc is a three-stage approach to analyzing a text: gaining a basic understanding of the "who," "what," "when," and "where"; deepening that understanding through a method (this presentation will use Roland Barthes' post-structuralism); and finally making a "guess" at the meaning of the text based on the information gathered from the first two stages.

The aforementioned approach benefits students by equipping them not only to think about a narrative in new way (post-structuralism) but also to decide upon its meaning based on textual evidence. Likewise, this approach allows students to consider and appropriate new perspectives into their world-views.

In the workshop segment of this presentation, the aforementioned approach will be applied to both an extensive reading context (a graded reader version of Melville's Billy Budd) and one of intensive reading (an excerpt from the English translation of Mishima's Confessions of a Mask).

デモ授業体験(無料)

Demonstrations

講座番号

KA-37

対象 中学校・高校教員

講義タイプ Lecture / Demonstrations

使用言語 日本語・英語



Anthony Madden

アンソニー マデン

神田外語学院ハイブリッドイングリッシュ  
ラーニングプログラム(HELP)コーディネーター

### Profile

Anthony Madden has been teaching at Kanda Institute of Foreign Languages since 2008. He has his Bachelor Degree in Education and recently completed his Master's in TESOL from the University of Science Art & Technology in the West Indies.

### Message

This lecture with hands-on demonstrations will show teachers an innovative approach to teaching using dialogue scripts. Memorization and practice are essential for students to learn good pronunciation, fluency, and proper phrase/sentence structure. For teachers who use dialogue scripts in their classes, the challenges they face are: 1) making the dialogue practice/memorization fun 2) being able to give each student the needed attention to correct their English, 3) and helping students overcome shyness of speaking around their peers.

## バーチャル英語圏社会で英会話を学ぶ語学プログラム： Hybrid English Learning Program (HELP) 体験授業

This session will explain and explore the Hybrid English Learning Program that is exclusive to Kanda Institute of Foreign Languages. This program is a blend of traditional classroom study coupled with a virtual online game component. This session will show how the program works, why it is very popular, educational, and fun for both the student and the teacher and how in principle, it can be adapted for use in Junior High and High School English courses.

\*All participants should be English teachers, hence they should understand conversational English.

講座番号

KA-38

対象 中学校・高校教員

講義タイプ Workshop

使用言語 英語



Gordon Myskow

ゴードン ミスコウ

神田外語大学大学院言語科学研究科  
英語学専攻 MA TESOL Program 准教授

### Profile

Gordon Myskow is Associate Professor and Assistant Director of the MA TESOL Program at Kanda University of International Studies. He has a PhD in Applied Linguistics from the University of Birmingham and a Masters in TESOL from Columbia University. His current research is in CLIL, especially the teaching of history to second-language learners. He is an advisor to the United Nations Association Test of English in Japan.

### Message

If the classroom is going to endure in the digital age as the principle location for learning, one of the things it will need to offer is an educational experience that students cannot have on their phones and computers. The classroom is capable of providing opportunities for students to work toward shared goals with people they would not normally communicate with, engage with topics and opinions they would not normally engage with, and yes, use languages they would not normally use. Helping students develop the interactional and collaborative skills to do this effectively will need to be a central focus of all classrooms.

## Kanda Gaigo MA-TESOL Program Demonstration Lesson: Cooperative Learning Options for Productive Group Work Activities 神田外語大学院TESOLデモ講座： 創造的なグループ学習活動のための共同学習

MEXT encourages English teachers to provide more opportunities for group work and interactional activities in their classrooms. Yet using group-work effectively in junior and senior high schools can be very challenging. Some students may go off task while others complete all the work, and it is not easy for teachers to monitor groups to ensure all students are participating equally. One approach that offers concrete techniques for addressing these issues is Cooperative Learning (CL).

This workshop outlines some CL techniques for structuring group work to ensure equal participation and individual accountability. Participants in the workshop will 1) understand key CL principles and structures, and 2) experience several cooperative learning activities that can be adapted for use in their own classrooms. While the materials used in the workshop will be from the junior and senior secondary-school context, the discussion will be of interest to teachers from all contexts, including elementary school and university.



英語教育公開講座 2019

# LECTURES / SYLLABUS

## 静岡会場 8/19 MON 月

全ての授業は、1コマ2時間で完結です。連続して受講する必要はありませんのでご注意ください。

10:00-15:00 受付開始 9:30

1コマ目 10:00-12:00 SH-1 / SH-2

2コマ目 13:00-15:00 SH-1 / SH-3

講座カテゴリ「中学・高校・大学の現役の先生方による講座」

Guest Teachers

講座番号

### SH-1

1コマ目 10:00-12:00 2コマ目 13:00-15:00

対象 中学校・高校教員  
講義タイプ Workshop / Teacher training  
使用言語 日本語



土屋進一

つちやしんいち

埼玉県西武学園文理高等学校教諭

### Profile

法政大学大学院修了。埼玉・西武学園文理高等学校に勤務。17年目。講演実績：ELEC英語教育研修会、英語教育達人セミナー、神田外語英語教育公開講座、カシオ計算機 授業に活かす教材活用セミナー、長野県高等学校 外国語研究会、啓林館 英語教育セミナー。授業撮影：Find!アクティブラーナー「教科横断型授業：英語×生物～つながることのUMAMI～」掲載論文：啓林館「授業実践記録2018,2019年」、数研出版「CHART NETWORK 83, 86号」、大修館書店「英語教育2019年6月号」

### Message

「主体的・対話的で深い学び」を実現する英語授業とは一体どのようなものなのでしょうか？また、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を3つの柱とし、生徒の資質・能力を育むためには、どのような仕掛けや授業作りが必要でしょうか？これまで試行錯誤を繰り返しながら辿り着いた具体的な指導事例を紹介し、今後のより良い英語授業について受講者のみなさんと一緒に考えていきたいと思います。

講座カテゴリ「ICTを応用した授業に関する講座」

Category: ICT for English Classes

講座番号

### SH-2

1コマ目 10:00-12:00

対象 中学校・高校教員  
講義タイプ Lecture / Workshop / Discussion  
使用言語 日本語・英語



関屋康

せきや やすし

神田外語大学外国語学部英米語学科教授



矢頭典枝

やずの のりえ

神田外語大学外国語学部英米語学科教授



小中原麻友

こなはら まゆ

神田外語大学外国語学部英米語学科専任講師

### Profile

関屋 康：神田外語大学教授、博士、専門は英語音声学、英語教育学  
矢頭 典枝：神田外語大学教授、博士、専門は社会言語学  
小中原麻友：神田外語大学専任講師、博士、専門は語用論、会話分析

### Message

日本の英語教育の現場では依然としてアメリカ英語を規範にしていることが多いように思われます。近年、世界のさまざまな地域から来日した人々が英語を教える状況が増えてきており、学習者だけでなく、日本人教員も戸惑うケースが報告されています。日本でも英語の多様性を前向きに捉え、アメリカ英語以外の英語は「間違い」とあるという意識を改める時にきています。そのような認識のもとに、日本人が多様な英語変種の違いを体系的に学習できる無料ウェブ教材「世界の英語モジュール」が、神田外語大学と東京外国語大学の共同研究によって開発されました。この英語モジュールを活用して、世界の多様な英語を学び、英語教育の在り方について考えましょう。

## 世界の英語を学ぶ

～神田外語大学・東京外国語大学共同開発の無料ウェブ教材を活用して～

「世界の英語モジュール」の特徴として、1) 動画を通して世界の英語変種の「違い」を学ぶことができる、2) 社会言語学、英語音声学、方言学などの専門分野の研究に基づいた学術的な教材である、3) 無料でインターネット配信しているため、社会で広く活用される、といった点が挙げられます。

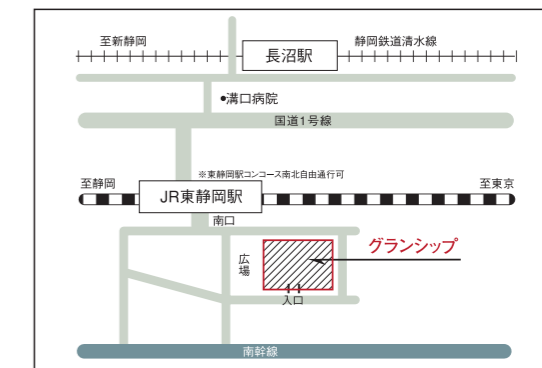
本講座では、まず、本ウェブ教材を活用して、すでに公開している8つの英語の特徴について、語彙、発音、語法の側面から具体的に解説します。取り上げる英語は、アメリカ英語、イギリス英語、カナダ英語、オーストラリア英語、ニュージーランド英語、アイルランド英語、シンガポール英語、インド英語です。これらの英語を聞いて、どれくらい理解できるのか、どのような印象を受けるのか、といった点を検証します。

後半では、受講者たちがそれぞれの教育現場における英語の多様性の現状について意見交換したうえで、外国人教員が話す多様な英語を生徒たちにどのように説明するのか、生徒たちにどのような英語を学ばせるべきなのか、といった点についてディスカッションする予定です。

受付  
■ グランシップ10F

交通アクセス

■ JR東静岡駅南口から徒歩約5分、静岡鉄道長沼駅から徒歩約10分  
※お車で来場の場合、グランシップまたは近隣駐車場を自己負担でご利用ください。



講座番号

### SH-3

2コマ目 13:00-15:00

対象 中学校・高校教員  
講義タイプ Lecture  
使用言語 日本語



北村孝一郎

きたむら こういちろう

神田外語大学外国語学部国際コミュニケーション学科専任講師

### Profile

上智大学卒業。シドニー大学よりM.A.およびM. Phil.取得。民間企業勤務後、NHKラジオ講座ディレクター、高校、大学講師を経て現職。英語教育、異文化間コミュニケーション研究の他、NINTENDO DS『えいごで旅するリトル・チャロ』やNHKエデュケーショナル『基礎LEAD』などICTを活用した英語教材開発に従事。

### Message

はじめまして、神田外語大学の北村孝一郎です。皆さんは、授業のために自分で作成した教材をどれだけお持ちですか。また、その中に他の先生と協同で作成したものはどれだけありますか。生徒のニーズに応えるため様々な工夫を形にしている先生が多いにもかかわらず、教材研究はとく個人作業になりがちではないでしょうか。この講座では、英文法指導における板書とハンドアウト、さらに身の回りにある音声や映像素材を利用した授業展開の例を紹介し、普段の授業準備に役立つスキルの共有を図ります。教材研究力の向上を共に目指す方々の参加をお待ちしています。

## ICTを活用した英文法指導：『英文法授業ノート』とデジタル・コンテンツを併用した授業実践

この講座は、英文法指導におけるICT活用の例として、板書と解説をデジタル化したテキストと身の回りにあるデジタル・コンテンツを使った授業の進め方を紹介し、その準備と実践のスキル共有を目的としています。

デジタル化したハンドアウトの活用例で取り上げる『英文法授業ノート』は、紙媒体の教材(授業で用いるにあたりICT機器は不要)であり、自学習用として、さらには新人の英語教師にとっては板書や解説の参考用として用いることもできます。板書においては下線を引く・色文字を使う・間隔を置くなどの提示、解説においては段階的に理解を助ける提示方法を紹介します。

デジタル・コンテンツの活用例では、音声や映像素材を授業に導入するねらいとタイミング、その効果的な提示方法を紹介します。また、教室でのプロジェクターやテレビモニター利用に際しての注意点についても取り上げます。なお、英語音声教材を活用した指導方法と授業準備については、詳細をまとめた実践報告資料をPDFファイルにて提供します。

最後に、英語授業におけるICTの有効利用について参加者間でアイデアを出し合うことで理解を深め、それぞれの教材研究力の向上を目指します。





英語教育公開講座 2019

# LECTURES / SYLLABUS

## 大宮会場 8/27 TUE 火

全ての授業は、1コマ2時間で完結です。連続して受講する必要はありませんのでご注意ください。

10:00-15:00 受付開始 9:30

1コマ目 10:00-12:00 OM-1 / OM-3

2コマ目 13:00-15:00 OM-2 / OM-4

講座カテゴリー「中学・高校・大学の現役の先生方による講座」 Guest Teachers

講座番号  
**OM-1**  
1コマ目  
10:00-12:00

対象 中学校・高校教員  
講義タイプ Workshop / Teacher training  
使用言語 日本語

**土屋進一**  
つちやしんいち  
埼玉県西武学園文理高等学校教諭

### 「主体的・対話的で深い学び」を促す英語授業の実践例

高等学校コミュニケーション英語Ⅰ～Ⅲの授業において「主体的・対話的で深い学び」を促す授業の実践例を提示します。前半は、4技能統合型の授業と関連づけ、英語プレゼンテーションをどのように指導するか、後半は、言語習得やコミュニケーション能力の育成に関して、①言語形式(form)、②意味内容(meaning)、③言語機能(function) の3要素の枠組みに沿って、他教科との教科横断型授業やCLIL型授業の実践例について実際の授業映像を交えてお話し致します。なお、授業の活動を実際にワークショップ形式でご体験いただきます。

#### Profile

法政大学大学院修了。埼玉・西武学園文理高等学校に勤務。17年目。講演実績：ELEC英語教育研修会、英語教育達人セミナー、神田外語英語教育公開講座、カシオ計算機 授業に活かす教材活用セミナー、長野県高等学校 外国語研究会、啓林館 英語教育セミナー。授業撮影：Find!アクティブラーナー「教科横断型授業：英語×生物～つながることのUMAMI～」掲載論文：啓林館「授業実践記録2018,2019年」、数研出版「CHART NETWORK 83, 86号」、大修館書店「英語教育2019年6月号」

#### Message

「主体的・対話的で深い学び」を実現する英語授業とは一体どのようなのでしょうか？また、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を3つの柱とし、生徒の資質・能力を育むためには、どのような仕掛けや授業作りが必要でしょうか？これまで試行錯誤を繰り返しながら辿り着いた具体的な指導事例を紹介し、今後のより良い英語授業について受講者のみなさんと一緒に考えていきたいと思ひます。

講座番号  
**OM-2**  
2コマ目  
13:00-15:00

対象 小学校・中学校・高校教員  
講義タイプ Workshop / Discussion  
使用言語 日本語

**高橋澄成**  
たかはし きよなり  
千葉県八千代松陰高等学校教諭

### Student Training for New Learning 新しい学びのための生徒育成

教師が新しい学び(主体的・対話的で深い学び)に向けて、スキルを習得するのはあたりまえですが、生徒も新しい学びに対応する力が必要です。その力を育成することをここでは、student trainingと呼んでいます。本講座では、ICT、アクティブラーニング、ふりかえり(リフレクション、ポートフォリオ)のための生徒育成方法について共有します。この講座も主体的・対話的な講座であります。グループワーク・ペアワーク中心で進めていきます。ミニプレゼンテーションなどもして頂きたいと思ひます。全セッション下記のアウトライン通りに進めていきますが、グループワーク・ペアワークの話し合いの結果によっては、内容を少し変えるかもしれません。参加者が興味ある内容について120分間情報を共有します。

- 講義内容
1. あたらしい学び
  2. EdTechとは？
  3. アクティブラーニングとは？  
[ディスカッション] 新しい学びについて  
[ディスカッション] アクティブラーニングについて
  4. Student training for Active learning
  5. Student training for ICT  
[ディスカッション] 今日は何を勉強しましたか？
  6. Student training for Reflective learning  
[アクティビティ] リフレクションライティング
  7. まとめ ～先生は主体的?対話的?～

#### Profile

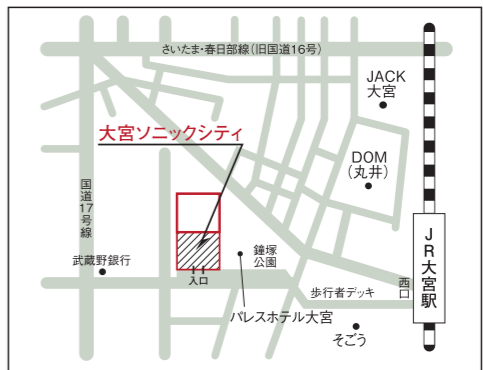
2018年3月 神田外語大学外国語学部英米語学科卒業  
2018年4月～ 千葉県八千代松陰高等学校英語科教諭

#### Message

主体的・対話的な学び(アクティブラーニング)の必要性が強調されています。全国各地で主体的・対話的な学びのためのセミナー、多くの本では、その活動が紹介されています。セミナー・本で学んだことをやってみようか？中々生徒が上手に活動してくれない。そんな経験ありませんか？アクティブラーニングをするには「アクティブラーニングが出来る生徒」が求められます。アクティブラーニングは自転車と一緒にです。出来る人・出来ない人がいます。そして、練習すればそれが必ず出来るようになります。本講座では私の一年間でやってきたアクティブラーニングが出来る生徒育成について皆さんと話し合いながら共有していきます。

受付  
■ 大宮ソニックシティビル7F 703会議室

交通アクセス  
■ JR大宮駅西口から徒歩約5分  
※お車で来場の場合、ソニックシティまたは近隣駐車場を自己負担でご利用ください。



講座カテゴリー「ICTを応用した授業に関する講座」 Category: ICT for English Classes

講座番号  
**OM-3**  
1コマ目  
10:00-12:00

対象 中学校・高校教員  
講義タイプ Lecture / Workshop / Discussion  
使用言語 日本語・英語

**関屋康** せきや やすし  
神田外語大学外国語学部英米語学科教授

**矢頭典枝** やずのりえ  
神田外語大学外国語学部英米語学科教授

**小中原麻友** こなはら まゆ  
神田外語大学外国語学部英米語学科専任講師

### 世界の英語を学ぶ

#### ～神田外語大学・東京外国語大学共同開発の無料ウェブ教材を活用して～

「世界の英語モジュール」の特徴として、1) 動画を通して世界の英語変種の「違い」を学ぶことができる、2) 社会言語学、英語音声学、方言学などの専門分野の研究に基づいた学術的な教材である、3) 無料でインターネット配信しているため、社会で広く活用される、といった点が挙げられます。本講座では、まず、本ウェブ教材を活用して、すでに公開している8つの英語の特徴について、語彙、発音、語法の側面から具体的に解説します。取り上げる英語は、アメリカ英語、イギリス英語、カナダ英語、オーストラリア英語、ニュージーランド英語、アイルランド英語、シンガポール英語、インド英語です。これらの英語を聞いて、どれくらい理解できるのか、どのような印象を受けるのか、といった点を検証します。後半では、受講者たちがそれぞれの教育現場における英語の多様性の現状について意見交換したうえで、外国人数員が話す多様な英語を生徒たちにどのように説明するのか、生徒たちにどのような英語を学ばせるべきなのか、といった点についてディスカッションする予定です。

#### Profile

関屋 康：本学教授、博士、専門は英語音声学、英語教育学  
矢頭 典枝：本学教授、博士、専門は社会言語学  
小中原麻友：本学専任講師、博士、専門は語用論、会話分析

#### Message

日本の英語教育の現場では依然としてアメリカ英語を規範にしていることが多いように思われます。近年、世界のさまざまな地域から来日した人々が英語を教える状況が増えてきており、学習者だけでなく、日本人教員も戸惑うケースが報告されています。日本でも英語の多様性を前向きに捉え、アメリカ英語以外の英語は「間違い」であるという意識を改める時にきています。そのような認識のもとに、日本人が多様な英語変種の違いを体系的に学習できる無料ウェブ教材「世界の英語モジュール」が、神田外語大学と東京外国語大学の共同研究によって開発されました。この英語モジュールを活用して、世界の多様な英語を学び、英語教育の在り方について考えましょう。

講座番号  
**OM-4**  
2コマ目  
13:00-15:00

対象 中学校・高校教員  
講義タイプ Lecture  
使用言語 日本語

**北村孝一郎**  
きたむら こういちろう  
神田外語大学外国語学部国際コミュニケーション学科専任講師

### ICTを活用した英文法指導： 『英文法授業ノート』とデジタル・コンテンツを併用した授業実践

この講座は、英文法指導におけるICT活用の例として、板書と解説をデジタル化したテキストと身の回りにあるデジタル・コンテンツを使った授業の進め方を紹介し、その準備と実践のスキル共有を目的としています。デジタル化したハンドアウトの活用例で取り上げる『英文法授業ノート』は、紙媒体の教材(授業で用いるにあたりICT機器は不要)であり、自学習用として、さらには新人の英語教師にとっては板書や解説の参考用として用いることもできます。板書においては下線を引く・色文字を使う・間隔を置くなどの提示、解説においては段階的に理解を助ける提示方法を紹介します。デジタル・コンテンツの活用例では、音声や映像素材を授業に導入するねらいとタイミング、その効果的な提示方法を紹介します。また、教室でのプロジェクターやテレビモニター利用に際しての注意点についても取り上げます。なお、英語音声教材を活用した指導方法と授業準備については、詳細をまとめた実践報告資料をPDFファイルにて提供します。最後に、英語授業におけるICTの有効利用について参加者間でアイデアを出し合うことで理解を深め、それぞれの教材研究力の向上を目指します。

#### Profile

上智大学卒業。シドニー大学よりM.A.およびM. Phil.取得。民間企業勤務後、NHKラジオ講座ディレクター、高校、大学講師を経て現職。英語教育、異文化間コミュニケーション研究の他、NINTENDO DS「えいごで旅するリトル・チャロ」やNHKエデュケーショナル『基礎LEAD』などICTを活用した英語教材開発に従事。

#### Message

はじめまして、神田外語大学の北村孝一郎です。皆さんは、授業のために自身で作成した教材をどれだけお持ちですか。また、その中に他の先生と協同で作成したものはどれだけありますか。生徒のニーズに応えるため様々な工夫を形にしている先生が多いにもかかわらず、教材研究はとかく個人作業になりがちではないでしょうか。この講座では、英文法指導における板書とハンドアウト、さらに身の回りにある音声や映像素材を利用した授業展開の例を紹介し、普段の授業準備に役立つスキルの共有を図ります。教材研究力の向上を共に目指す方々の参加をお待ちしています。



## 神田外語大学

神田外語大学は千葉県の幕張新都心に位置し英米語、中国語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語、タイ語、スペイン語、ブラジル・ポルトガル語といった環太平洋の「言葉と文化」をテーマに、コミュニケーション能力の高い人材を輩出している4年制大学・大学院です。



設立: 1987年  
代表者: 宮内 孝久(学長)  
所在地: 千葉県千葉市美浜区若葉1-4-1  
TEL: 043-273-2826  
<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/>

## 神田外語学院

語学力と専門スキル、そして異文化を理解する心を持ち、世界各国で活躍する人材を育成しています。空港や、国内外のホテル、企業内英語関連部署、観光関連、児童英語教育の現場や国際ビジネスの世界で約6万人の卒業生が活躍しています。



設立: 1957年  
代表者: 糟谷 幸徳(学院長)  
所在地: 東京都千代田区内神田2-13-13  
TEL: 0120-815-864  
<https://www.kandagaigo.ac.jp/kifl/>

## 神田外語キャリアカレッジ

神田外語キャリアカレッジ(KGCC)は、企業・官公庁向け語学研修専門機関です。ビジネス英語・英会話、外国人向けのビジネス日本語講座をはじめ、経験豊富な研修コーディネーターがニーズに合わせた研修プランをオーダーメイドでお作りします。



設立: 1996年  
代表者: 川上 恭司(校長)  
所在地: 東京都千代田区内神田2-13-9  
神田外語本部ビル3F  
TEL: 03-3254-7100  
<https://www.kandagaigo.ac.jp/kgcc/>

## British Hills

福島県・羽鳥自然公園の海拔1,000mの森に位置するブリティッシュヒルズ。7万3,000坪の広大な敷地には、マナーハウス(英国荘園領主の館)、クラフトハウスや12世紀から18世紀にいたる建築様式のゲストハウスがあり、中世英国の街の雰囲気を楽しむことができる施設です。



設立: 1994年  
代表者: 村田 保浩(代表取締役社長)  
所在地: 福島県岩瀬郡天栄村田良尾芝草1-8  
TEL: 0248-85-1313  
<https://www.british-hills.co.jp/>

## 神田外語キッズクラブ

児童英語教室の運営・講師養成、幼稚園・小学校等での英語教育サポートを行っているのが、神田外語キッズクラブ。神田外語グループが持つ外国語の効果的な習得法のノウハウを、児童への英語教育にも活かしています。神田外語キッズクラブが大切にしているのは、人と人との心のふれ合い。言葉のキャッチボールを通じて、英語で積極的にコミュニケーションが図れる能力を培い、自分の意思を伝えることのできる“小さな国際人”を育成しています。



設立: 1996年  
運営: 株式会社 神田外語文庫  
代表者: 庄島 桂子(代表取締役社長)  
所在地: 東京都千代田区内神田2-13-9  
神田外語本部ビル4F  
TEL: 0120-154-815  
<https://www.kidsclub.co.jp/>

## 株式会社神田外語マネジメントサービス

株式会社神田外語マネジメント・サービスは、学校法人佐野学園が100%出資し、設立された収益事業法人です。神田外語グループの一員として、「言葉は世界をつなぐ平和の礎」、建学の理念のもと、世界に貢献する意欲と能力を持つ人材の育成に携わり、学生支援サービス、教育・研究活動のサポートを通して、学校運営の円滑化に貢献し、学園の発展に寄与してまいります。



設立: 2014年  
代表者: 岡戸 巧(代表取締役社長)  
所在地: 東京都千代田区内神田2-13-8  
BMビル301  
TEL: 03-3258-5866  
<https://www.kgms.co.jp/>

# MA TESOL Program



現職の先生方を対象とした「英語教育のプロフェッショナル」養成プログラム **東京**

HP <https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/grad/language/tesol/>

## MA TESOL Programの理念

神田外語大学大学院言語科学研究科英語学専攻(修士課程)のMA TESOL Programは、主に現職教員を対象とし、外国語学習・教育の最新理論を明確に理解した上で、自らの教室実践に関して教育学的知見に基づいた意思決定を行うことができる教育者を育成しています。教育現場の多様性と複雑性を認識し、教師が学習者のニーズに適切に対応するために必要な幅広い専門知識・指導法を修得できます。また、一種免許をお持ちの方は専修免許(英語)が取得可能です。2016年より、MA TESOL Programが文部科学省「職業実践力育成プログラム(BP)」に認定されました。

## MA TESOL Programの特徴

- 日本で英語教育に携わっている英語母語話者と非母語話者を対象とします。
- 在職のまま通学ができるように、週末に授業を行います。
- 授業はすべて英語で行われるInteractive(双方向)形式です。
- 募集は年2回です。(9月入学 / 4月入学)
- 2年~2年半で修士号を修得可能です。
- 場所は、東京・神田キャンパスになります。
- 教諭一種免許状(英語)保有者は、本修士課程修了時に専修免許状の申請が可能です。

TESOLのエッセンスが最短1年で学べる「Certificate Program in TESOL」もあります。

## 入学試験日程(2020年4月生募集)

内容	期間
出願期間	2019年12月2日(月)~2020年1月15日(水)
書類審査結果通知	2020年1月23日(木)
第二次審査	2020年1月26日(日)
合否通知	2020年1月31日(金)
入学手続き期間	2020年2月3日(月)~2月14日(金)

## Rod Ellis氏 講演会《無料》

日時 2019年12月6日(金) 18:30~20:00

会場 神田外語学院 3号館7階 PLAZA AZUL

テーマ Teacher-Preparation for Task-based Language

詳細・申込方法 MA TESOL Program ホームページより



## 神田外語大学大学院 東京キャンパス MA TESOL Program

〒101-8525 東京都千代田区内神田2-13-13 神田外語学院7号館4階

TEL: 03-3254-3586 木曜~月曜 10:00~18:00(休業日:火曜および水曜) FAX: 03-3254-3585 Email: tesol@ml.kuis.ac.jp

# いま、神田外語大学の 「教育力」の高さが 評価されています。

## THE 世界大学ランキング日本版2019



Times Higher Education  
世界大学ランキング日本版とは

英国の新聞社タイムズの教育専門誌Times Higher Educationが発表するTHE世界大学ランキングの日本版。これまで見えにくかった日本の大学における「教育力」に焦点を当て、学生の学びの質や成長性に注目。「教育リソース」「教育充実度」「教育成果」「国際性」の4分野16項目を指標として、大学ランキングを作成したものの。

### THE世界大学ランキング日本版2019 TOP50

総合順位	大学	設置区分	教育リソース	教育充実度	教育成果	国際性	総合
1	京都大学	国立	84.4	78.8	98.4	69.8	82.0
2	東京大学	国立	87.0	79.9	97.3	63.8	81.9
3	東北大学	国立	82.5	80.9	95.6	63.2	80.2
4	九州大学	国立	76.9	77.2	96.9	73.4	79.5
=5	北海道大学	国立	74.3	81.7	93.7	72.8	79.3
=5	名古屋大学	国立	77.6	80.3	95.7	67.8	79.3
7	東京工業大学	国立	77.5	76.7	93.5	73.4	79.0
8	大阪大学	国立	78.8	77.1	96.6	62.4	77.9
9	筑波大学	国立	74.3	84.5	90.4	61.8	77.5
10	国際教養大学	公立	51.4	92.4	72.0	100.0	76.7
11	国際基督教大学	私立	54.3	90.4	50.1	95.4	72.7
12	広島大学	国立	66.7	78.2	74.0	69.3	71.8
13	早稲田大学	私立	53.1	79.9	93.6	72.4	71.5
14	慶應義塾大学	私立	60.5	76.3	95.9	58.0	70.4
15	一橋大学	国立	52.4	77.8	81.4	71.8	68.5
16	神戸大学	国立	66.7	73.2	80.0	52.7	68.0
17	上智大学	私立	45.9	83.5	66.8	83.0	67.9
18	金沢大学	国立	65.8	76.1	60.6	58.8	66.6
19	千葉大学	国立	64.6	75.2	72.9	51.2	66.4
20	東京外国語大学	国立	44.9	80.1	66.3	80.2	65.9
21	長岡技術科学大学	国立	58.7	69.7	64.2	72.2	65.6
22	東京農工大学	国立	70.1	64.9	71.8	53.3	65.5
23	東京医科歯科大学	国立	84.9	61.5	27.6	68.5	65.4
24	岡山大学	国立	62.0	71.3	62.8	59.3	64.4
25	お茶の水女子大学	国立	64.7	76.0	50.9	56.1	64.2
26	会津大学	公立	61.6	76.4	31.8	75.8	64.1
27	立命館アジア太平洋大学	私立	34.5	82.8	52.3	94.0	63.7
28	横浜国立大学	国立	55.3	71.6	73.6	56.7	63.4
29	豊橋技術科学大学	国立	67.5	62.0	53.3	65.0	63.1
30	横浜国立大学	国立	70.1	66.9	57.6	48.8	62.9
31	京都工芸繊維大学	国立	61.2	63.5	64.6	61.1	62.4
32	東京海洋大学	国立	62.9	67.1	58.2	56.2	62.0
33	立命館大学	私立	42.5	77.9	65.8	66.9	61.7
34	神田外語大学	私立	36.6	82.8	54.4	76.6	61.3
35	同志社大学	私立	42.4	77.5	66.0	60.8	60.4
36	東京理科大学	私立	55.5	77.4	71.6	-	60.3
37	関西学院大学	私立	41.3	78.3	60.2	64.3	60.0
38	大阪市立大学	公立	66.1	64.0	66.8	37.8	59.9
39	首都大学東京	公立	59.2	69.0	61.4	45.3	59.7
40	長崎大学	国立	61.7	69.2	53.5	46.4	59.6
=41	立教大学	私立	39.3	79.6	59.0	63.4	59.4
=41	豊田工業大学	私立	72.6	57.8	47.3	49.0	59.4
43	電気通信大学	国立	64.4	59.7	62.6	44.5	58.7
44	芝浦工業大学	私立	49.0	71.2	57.8	56.7	58.6
45	新潟大学	国立	59.2	70.1	56.5	40.8	58.4
=46	福岡女子大学	公立	51.9	74.2	-	80.3	58.0
=46	信州大学	国立	60.8	66.9	62.0	36.6	58.0
=48	秋田大学	国立	58.3	61.7	59.8	46.7	57.3
=48	学習院大学	私立	43.9	70.4	56.6	61.0	57.3
=48	大阪府立大学	公立	62.7	58.4	66.1	39.4	57.3

## THE 世界大学ランキング日本版2019

### 分野 教育充実度

**5位**

教育充実度とは

在学生調査「授業の充実度」「知り合いへの推奨度」と、高等学校の進路担当教員の評判調査「生徒の力を伸ばしている大学」を集計したもの。

分野別

#### ランキング 教育充実度 TOP20

順位	大学	設置区分	教育充実度
1	国際教養大学	公立	92.4
2	国際基督教大学	私立	90.4
3	筑波大学	国立	84.5
4	上智大学	私立	83.5
=5	神田外語大学	私立	82.8
=5	立命館アジア太平洋大学	私立	82.8
7	北海道大学	国立	81.7
8	東北大学	国立	80.9
9	名古屋大学	国立	80.3
10	東京外国語大学	国立	80.1
=11	東京大学	国立	79.9
=11	早稲田大学	私立	79.9
13	立教大学	私立	79.6
14	東洋大学	私立	79.1
15	京都大学	国立	78.8
16	関西学院大学	私立	78.3
17	広島大学	国立	78.2
18	立命館大学	私立	77.9
19	一橋大学	国立	77.8
=20	同志社大学	私立	77.5
=20	津田塾大学	私立	77.5

### 分野 国際性

**19位**

国際性とは

外国人学生比率・外国人教員比率に加え、日本人学生の留学比率・外国語で行われている講座の比率も含めた4項目のデータから、「どれだけ国際的な教育環境になっているか」を評価したもの。

#### 分野別ランキング 国際性 TOP20

順位	大学	設置区分	国際性
1	国際教養大学	公立	100.0
2	国際基督教大学	私立	95.4
3	立命館アジア太平洋大学	私立	94.0
4	大阪女学院大学	私立	86.5
5	東京国際大学	私立	85.9
=6	神戸市外国語大学	公立	85.0
=6	麗澤大学	私立	85.0
8	上智大学	私立	83.0
9	名古屋外国語大学	私立	82.7
10	長崎外国語大学	私立	82.5
11	宮崎国際大学	私立	82.2
12	京都外国語大学	私立	81.0
13	福岡女子大学	公立	80.3
14	東京外国語大学	国立	80.2
15	梅光学院大学	私立	79.3
16	創価大学	私立	79.0
17	名古屋商科大学	私立	78.0
18	関西外国語大学	私立	77.6
19	神田外語大学	私立	76.6
20	会津大学	公立	75.8

## THE 大学インパクトランキング2019

-SDG4質の高い教育をみんなに-



日本国内

**1位**

SDG別  
ランキング  
SDG4部門  
世界 **62位**

THE 大学インパクトランキングとは

国連が掲げるSDGs®に対する大学の社会貢献度を可視化。SDGs17項目のうち大学に関連する11項目をランキング。  
※Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標

### THE 大学インパクトランキング SDG別ランキング 国内TOP10

SDG	順位	大学	設置区分
SDG4 質の高い教育をみんなに	62	神田外語大学	私立
	101-200	京都大学	国立
	101-200	鳥取大学	国立
	101-200	宇都宮大学	国立
	201-300	広島大学	国立
	201-300	金沢大学	国立
	201-300	慶應義塾大学	私立
	201-300	関西学院大学	私立
	201-300	三重大学	国立
	201-300	大阪大学	国立

### SDGs17項目のうち、大学と関連性のある11項目

